

2023.2



会誌

[70号]

一般社団法人
保健医療福祉情報システム工業会

目次

巻頭言	PHC(株) 取締役 メディコム事業部 事業部長	大塚 孝之	2
JAHISひろば	(一社) 日本医療情報学会 代表理事 北海道大学大学院保健科学研究院	小笠原 克彦	4
特集	「# 3年ぶり」米国出張、何が変わった？	塩川 康成	7
	2022年11月21日、厚生労働大臣表彰を受けました	真野 誠	19
トピックス	JAHIS 2023年オンライン新春講演会		21
	事務局 総務部 新しいパンフレットができました		23
	運営会議議長 ご挨拶	大原 通宏	24
	オンラインセミナー・女性会員交流会の取り組み	木戸 須美子	25
	ヘルスソフトウェアを対象とした国際標準規格のJIS制定について	岡田 真一	29
	医事コンピュータ部会主催 海外オンラインセミナー		35
部会から	病理・臨床細胞分野の新たなJAHIS技術文書発行と2つのJAHIS標準改定のご紹介	近藤 恵美	37
	自治体情報システムの標準化における現状と課題について	大村 周久 河野 大輔	40
	事業推進部 日薬展示委員会 日本薬剤師会学術大会併設 IT機器展示の歩み	宮島 毅 亀田 裕文 山田 猛 西村 寿夫	44
運営状況報告	理事会／運営会議状況報告／総務会／委員派遣ならびに協賛・後援		46
会員メール			60
会員紹介	エムジーファクトリー株式会社／プロテック株式会社／株式会社アインホールディングス／ アマゾン ウェブ サービス ジャパン合同会社／株式会社アイ・オー・データ機器／ 株式会社バッファロー／株式会社DIGITAL LIFE／ezCaretech Japan株式会社／ 株式会社法研システムズ		65
編集後記			70

ご挨拶



一般社団法人
保健医療福祉情報システム工業会
副会長

おおつか たかゆき

大塚 孝之

(PHC株) 取締役
メディコム事業部 事業部長

一般社団法人保健医療福祉情報システム工業会（以下、JAHIS）会員の皆様、平素よりJAHISの活動にご理解、ご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。

また、医療の最前線で尊い患者の命を守るべく、厳しい環境の中、対応を続ける医療従事者の皆様に、心より敬意を払い、感謝を申し上げます。

さて、未だに長引く新型コロナウイルス感染症の猛威の中、我が国は本格的な「少子高齢化・人口減少時代」を迎えようとしております。高齢者から若者まで全ての人が元気に活躍し続けられる社会、安心して暮らすことのできる社会を構築していくために、JAHISが対象としている「保健医療福祉を取り巻く環境」におきましても、生産年齢人口の減少、増大し続ける医療費、疾病構造の変化などの様々な課題を解決していかなければなりません。

一方で新型コロナウイルス感染症の対応によりデジタル化における課題が顕在化し、マイナンバーカードの整備、オンライン医療などの議論が活発となりました。その結果、アナログ情報を置き換えるデジタル化（デジタイゼーション）に留まらず、データを利活用し業務の最適化を図るデジタライゼーション、さらにデータ連携によるデジタル化3原則（デジタルファースト、ワンスオンリー、コネクテッド・ワンストップ）を満たすDXへの動きが加速しています。

そうした我が国の状況に対して、2022年6月7日に閣議決定された「経済財政運営と改革の基本方針2022」（骨太方針2022）を踏まえて、「全国医療情報プラットフォーム」、「電子カルテ情報の標準化」、「診療報酬改定DX」を3本柱に、医療DXを推進するため、内閣総理大臣を本部長とし関係閣僚により構成される『医療DX推進本部』が10月に設置されました。また、それに先立ち、厚生労働省でも9月に『「医療DX 令和ビジョン2030」厚労省推進チーム』が発足しており、医療DXの実現に向け、関係省庁をあげて強く推し進められております。

直近の具体的な政策として、オンライン資格確認等システムの義務化に加えて、紙の健康保険証を廃止しマイナンバーカードと健康保険証の一体化を進めるなど、医療DXの基盤となるインフラを整備されていきます。こうしたオンライン資格確認等システムやマイナンバーカードのインフラを利用した医療DXの第一歩として電子処方箋の本格運用が2023年1月より開始されました。電子処方箋管理サービスに処方・調剤データを蓄積することにより、重複投薬や併用禁忌の防止などの医療施設間を超えた情報連携やPHR（パーソナルヘルスレコード）を用いた患者自身による閲覧・管理を実現することでより質の高い医療の提供に繋がると期待されており、保健医療福祉情報システムに関する標準化の推進、技術の向上、品質及び安全性の確保を目指すJAHISも重要な役割を担うと考えられます。

また、このようなデータ利活用の加速と共にサイバーセキュリティ対策も重要な課題となります。昨今、病院におけるランサムウェア被害が増加しており、JAHISでも、病院、診療所、薬局、介護施設等を問わず、医療情報を扱う施設において、3省2ガイドライン（「医療システムの安全管理に関するガイドライン」、「医療情報を取り扱う情報システム・サービスの提供事業者における安全管理ガイドライン」）のさらなる順守、周知、支援などの徹底した活動が重要となります。こうした活動はJAHISが2020年に発刊した「2030ビジョン」の中でコンセプトとしている「データ循環型社会の実現」を達成し、健康・医療・介護分野のデータを蓄積・循環し利活用することで、データ提供者である国民が利益を享受できる社会の構築には必要不可欠であり、今後益々、JAHISへの期待も高まっていくと考えております。

JAHISは、引き続き、各省庁、学会等の関係団体と連携を強化しながら活動を推進してまいります。皆様の一層のご支援、ご鞭撻のほど、よろしくお願いいたします。

温泉のひと時

— 登別、カルルス、虎杖浜 —

（一社）日本医療情報学会 代表理事
北海道大学大学院保健科学研究院

おがさわら かつひこ
小笠原 克彦



気安く「JAHISひろば」の原稿の執筆依頼を引き受けたのはいいのですが、お送り頂いた山本先生、木村先生、中島先生の原稿を拝見して「しまった」と思わず唸ってしまいました。これらの先生方の多彩で崇高な趣味に比べ、なんと私が無趣味なことか……つくづく何を書けばよいのか困ってしまいました。

思い起こしてみますと、高校時代はラグビー部に所属していましたが足が遅く、身長がちょっと高かったためフォワード（ポジションはロック）として、ただただスクラムの中でもがいていたような気がします。そのためか、何となく楕円のボールが疎ましく感じる時期もあり、高校卒業以来、ボールを触っていません。大学時代には長淵剛の引き語りのうまい友人に触発されてフォークギターに挑戦しましたが、不器用な私は3か月で断念した苦い記憶があります。そもそも、音痴でノリだけだったような気がします。また、オートバイの免許を20歳にとりスクーターレースやジムカーナにはまり、就職してからも愛車であったヤマハXJ400Dで北海道内のツーリングに明け暮れていました。しかし、度重なる事故歴の武勇伝から双子の娘が生まれる時に妻から「オートバイ禁止命令」が出てしまい、かれこれ20年がたってしまいました。結局、趣味という趣味がないまま、今では敢えて書ける内容としては、おじさんらしい温泉と酒しか残っていないような気がします。



1. 登別温泉

登別に別荘（実は、妻の実家）があることから、月に一度程度ですが、84歳で一人暮らしをしている義父の様子を見がてら登別温泉に通っています。登別温泉は、ご存じの通り北海道を代表する日本有数の温泉であり、登別の語源はアイヌ語でヌプル・ペッ、その意味は「白く濁った川・色の濃い川」とのことです。これをお読みの方の多くは、「登別温泉」と聞くと入浴剤の影響もあり「乳白色のお湯」と思われる方も多いかもしれません。実際、多くの温泉が硫黄泉と呼ばれている乳白色であり、肌触りも硫黄の結晶のため「ざらっ」とした感じがします。登別温泉は1日に1万トン自然湧出しており、代表的な硫黄泉の他、食塩泉、ミョウバン泉、芒硝泉、緑ばん泉、鉄泉、酸性泉、重曹泉、ラジウム泉もあるそうです。それぞれお湯の効用は別に譲るとしまして、これらの様々なお湯のためか明治時

代からの湯治場としても有名です。私が学生の頃には登別温泉のふもとに「北海道大学医学部付属病院登別分院」があり、本院に統合される20数年前まで、温泉医学の研究がなされていた頃が懐かしく思い出されます。

私のお気に入りの登別温泉は、妻の実家から自動車で15分位のところにある「夢元 さぎり湯 (<http://sagiryu-noboribetsu.com/>)」です。ここは温泉街の中では珍しく日帰り温泉のみで、大人一人480円と格安です。この駐車場のナンバーを見てみると、地元室蘭はもちろんのこと、札幌や帯広、函館の他、本州の地名のナンバーもあり、ワンコインの楽園をもとめて道内を中心に全国各地から来ていることがわかります。



お湯は、濃い乳白状の硫黄泉とこちらも濃い乳白色のミョウバン泉であり、どちらも100%源泉かけ流しです。そのため、登別の他の温泉ホテルほどは広くはない風呂場に入ると独特の酸っぱさを感じる香りがあり、そこが改めて温泉であることを実感します。登別の他の温泉ホテルに比べ、湯船のお湯はやや熱く、その温度に慣れるのに少々時間がかかりますが、その温度に慣れるとその熱さが心地よく感じます。ミョウバン泉には「目の湯」との案内があり、最近老眼がすすみ目の疲れを感じやすい私は、いつも湯船のお湯で瞑った目を温めています。硫黄泉は濃い乳白色で、湯船の底には砂のような結晶が沈んでおり、移動するたびに足の裏がザラザラしています。湯船の中では、この結晶を手にとり、ニキビ跡が少しでも消え、つるつるにならないかと顔にこすりつけている次第です。10分も湯船に浸かっていると、日常に付きまとっている雑念が「汗」と一緒に流れていき、何も考えられないような感覚になります。私はサウナーではないためよくわかりませんが、きっと「整う」に近いような感覚なのではないでしょうか。「さぎり湯」では、いつも1時間がアツという間に過ぎ、硫黄の香る火照った身体でリフレッシュされたことを感じています。

2.近隣の温泉 —カルルス温泉と虎杖浜温泉—

登別温泉の近くには、カルルス温泉や虎杖浜温泉があります。カルルス温泉は耳にした方も多いかもしれません。「カルルス温泉」と聞くと「登別温泉」と混同されている方も多く、乳白色の温泉をイメージしがちですが、実はほぼ無色透明の単純泉です。そのため、登別温泉のような独特の酸っぱさを感じる香りが苦手な方に向いており、肌に優しいことから湯あたりが少ないと言われています。このカルルス温泉は、紅葉の時期は、紅葉を見ながら入浴できその風景が素晴らしいと聞いています。運がよければ(?)、露天風呂からエゾシカやキタキツネを見ることができるとのことです。残念ながら、まだ私は、紅葉時期のカルルス温泉には行ったことがありませんが、ぜひ、今年の秋は、川のせせらぎの中、紅葉を見ながらの露天風呂を堪能したいと考えています。昔に比べカルルスの温泉街はだいぶ寂れてしまい、今では2~3軒の温泉宿しかなく、コン



ビニも何もありません。カルルス温泉のすぐそばにはサンライバスキー場があり、スキーシーズンにはスキーで冷たくなった身体を、カルルス温泉で温めてから帰る方も多いようです。

虎杖浜温泉は登別市の隣町である白老町にあり、登別市にほぼ接しています。虎杖浜は「たらこ」でも有名であり、温泉地域は、水産工場・販売店の合間に温泉が点在しています。白老町は町全体が温泉のような町で、温泉付きの団地もあるなど、札幌に続く国道36号線を走っているとあちらこちらに温泉の看板が見受けられます。虎杖浜温泉の泉質は、ほぼ透明の食塩泉で、場所によっては太平洋を見ながら、温泉に浸ることができます。虎杖浜温泉の近くには白老漁港もあり、札幌では購入できない新鮮な近海のお魚もおいしい地域です。秋から冬にかけては、登別からの帰りには必ずと言ってよいほど白老のスーパーに立ち寄り、独特な容姿の八角（本州ではトクビレと言うらしい）を購入し、自宅で日本酒を片手に刺身や焼き魚にしてその独特な歯ごたえや旨味を味わっています。



これをお読みの皆様に、気分だけでも温泉に行ったつもりになって、ちょっぴりでもリフレッシュ感を感じていただければ嬉しく思います。出張などで北海道にお越しの際は、日常を忘れにちょっと足を延ばして、登別・カルルス・虎杖浜までいかがでしょうか？

「# 3年ぶり」米国出張、 何が変わった？

相互運用性委員会

HIS-RISメッセージ交換標準化WGリーダー IHE WGリーダー
(キヤノンメディカルシステムズ株)

しおかわ やすなり
塩川 康成



1. 海外状況報告

2020年2月に中国より報告された新型コロナウイルス感染症の世界的流行により、人の往来と交流が生命のリスクとなってしまう、それまで経験したことのない難局を、人類は突然迎えることになりました。個人、企業の海外渡航自粛に加え、日本政府は出入国制限に踏み切り、ビジネス出張についても大きな影響を受けました。筆者も2020年2月までは、ほぼ毎月、標準化団体活動、あるいは社用により海外に出掛けていましたが、そこから2年9ヶ月間にわたり渡航が途絶えることとなりました。幸いにして、時がこの脅威に対応する知識と術を人類にもたらしたことにより、2022年になると諸外国は次々と往来の正常化と経済活動の再開に舵を切り、対応の遅かった日本政府も2022年9月、ついに海外からの入国制限を大きく緩和しました。

一方、JAHISはこの間、2021年6月にIHE (Integrating the Healthcare Enterprise) の国際組織である、IHE InternationalへのMembership登録を行い、医療システム部会相互運用性委員会内にIHE WGを発足しました。これまでもJAHISでは各分野のデータ交換規約整備にあたり、IHEプロファイルのワークフロー定義を参考にしたり、日本IHE協会の一部ドメインにおける国際活動に対して、積極的に支援をしたりしてきました。このMembership登録により、正式に日本の保健医療福祉分野の情報システム産業としての立場を、IHE Internationalの様々な場面で表明することができるようになりました。

IHE WGのリーダーを拝命した筆者は、この度、部会を通じ国際標準化委員会に対し、毎年11月末に米国シカゴで開催される、RSNA (Radiological Society of North America : 北米放射線学会) 年次総会への参加を提案し了承されました。RSNAはHIMSS (Healthcare Information and Management Systems Society : 医療情報管理システム学会) とともに、IHEを創設した団体です。このRSNA年次総会では、IHE International Board (IHE Internationalの最高意思決定会議) と IHE Radiology Planning and Technical Committee (放射線企画技術合同委員会) が併設開催され、さらには画像標準規格DICOMの最高意思決定会議である、DICOM Standard Committeeも同様に開催されております。また、学会内のセッションでも放射線分野にはなりませんが、Imaging Informaticsに分類されたセッションがあり、米国を中心とした医療情報分野の最新トレンドや、標準化動向に関わる情報収集が行えます。

ところでこの項は、出張報告のお堅い話ではなく、海外渡航者の目線にフォーカスした3年前との違いについてのお話になります。筆者にとっては実にほぼ「#3年ぶり」の海外渡航ということもあって、JAHIS会誌企画担当者からは、2019年のRSNA出張時との変化をあちこち感じ取って記事にしてほしい、という執筆依頼をいただきました。ただ、実際に行ってみて最初に感じたことは「基本的には、ほぼ何も変わっていなかった」ということです。人々は屋内外問わずほぼマスクは着用しておらず、学会内も「マスクは着用不要」との案内がホームページにも掲載され、完全に経済活動や日常生活は元に戻っていました。そんな中でも特に変化があると思ったことを、以下にレポートします。



図 RSNAシンボル。朝一で未だ人が少なく空いた瞬間を撮れた。日中は黒山の人だかりになる。

1) 事前準備

(1) 出張手続き

JAHISでの海外出張手続きは、筆者にとっては実は今回初めてなので、恐らく2年前とそう変わっていないものと推察しています。一方で、筆者が所属する社内での海外出張申請については、以前に比べて提出書類や承認作業について厳格化され、社員の安全確保という観点から渡航リスクの精査と対応策の確認等に関する情報提供が必要で、許可が出るまでに相応の時間がかかりました。

(2) 米国入国のための事前書類提出

米国に限らず、海外渡航者は入国先に応じて提出すべき必要書類を事前に準備する必要があり、航空会社でこの事前申請を代行して実施しているようです。今回筆者は全日空ANAを使いましたが、オンラインでのチケット予約取得の際に、「ANA Travel Ready」事前登録サイトに誘導され、必要な事前申請書類の登録を行いました。ここでは国別に必要な入国書類の情報提供や、必要書類フォームのPDFファイルへのリンク情報等があります。米国の場合は、18歳以上で2回以上の新型コロナウイルスワクチン接種証明がある場合、その証明情報（証明書、あるいは日本の新型コロナウイルスワクチン接種証明アプリのキャプチャ画像）とパスポート情報（顔写真があるページ）、CDC（米国国際安全衛生センター）発行の宣誓書フォームへの必要事項記入とサイン、が必要になります。紙面書類は印刷して記入後、スキャンして電子化するこ



図 ANA Travel Ready（オンラインチェックイン時の事前渡航書類確認）へのリンク。

とで、事前登録サイト内の指示に従いアップロードをすることができます。すると出国前日くらいまでに航空会社側で内容に不備や漏れがないかがチェックされ、問題がなければ事前申請OKのステータスをサイト内で確認することができます。

(3) 日本帰国の際の事前申請手続き

ANAサイトでは再入国時の手続きについても情報提供しており、デジタル庁による「Visit Japan Web」サイト（URL：<https://www.vjw.digital.go.jp/>）に誘導されるので、そこから起動するアプリにて必要事項の登録を渡航前に行っておくと便利です。このアプリは日本人の再入国専用ではなく、外国人が日本に旅行する際にも用いられ、海外滞在中に登録することももちろん可能です。ここでも個人の基本情報やパスポート情報、日本国内での滞在先に関する情報、ワクチン接種証明書、各種チェックリストへの回答を行います。このアプリは帰国時に係員が確認しますので、基本はスマートフォンからの登録をお勧めします。（なお、(2) (3) は 2022年11月時点での情報で、将来手順は変更される可能性があります）

(4) 飛行機便の少なさ

以前、ANAには1日2本の東京（羽田／成田）ーシカゴ直行便がありました。今回筆者がANA便を予約した2022年10月下旬頃は、1本しかなく、シカゴ早朝到着、東京夜帰着の便しか選択肢がありませんでした。帰りの機中でCAさんと立ち話をした際に、最近では需要が急増して運行本数ももとに戻ってきていますよ、という情報もいただいたので、徐々に改善されるのではないのでしょうか。

(5) 飛行機代が2倍以上に！？

ロシアによるウクライナ侵攻により、世界のエネルギー事情が悪化しており、また大きな円安も加わって航空運賃が影響を受けており、特にサーチャージが高止まりしている状況です。前回2019年のRSNA参加の際のシカゴ往復代金は17万円でしたが、今回はなんと37万円と2倍以上に跳ね上がっています。運行本数が戻ったとしても、もう少しなんとかならないと個人の海外旅行需要は戻らないのではないのでしょうか。

(6) ホテル代は2割上昇

RSNA期間中は、以前より現地の宿泊費については「RSNA価格」と言われ2、3割、割高ではありました。ただ、2ヶ月程度前に予約を入れれば、一般的なホテルで\$180／日くらいでは泊まれたように思います。今回は同クラスのホテルを\$200強／日で確保できました。やはり若干高くなっています。

2) 日本からの出国

(7) 羽田空港：チェックインにビジネスクラス列で30分待ち

虫の知らせか、当日不思議と早く目覚め、予定より1本前の電車で20分早く羽田空港第3ターミナルに着きましたが、チェックインロビーはすでに大混雑で嫌な予感がしました。係員に尋ねてビジネスクラスの列の端をようやく見つけて並びましたが、チェックインまで30分待ちでした。ただ、カウンターでは基本的にこれまでと同様の流れでパスポート提示と荷物預けで普通に手続き終了。単に出国者が多かったのかしら、と思ったら、筆者の隣のカウンターでは「事前申請？Travel Readyって何のことですか？」という質問に、係員が「さあ、たいへん！」という表情で対応に追われていました。

なるほど、恐らくこのケースがあちこちのカウンターで発生しているのか、と長蛇の列の謎が解けました。

(8) 手荷物検査前に搭乗券確認の自動改札が出現

今回、優先レーンが見つからず、一般の検査待ちの列に並ぶことになりましたが、入り口に搭乗券のバーコードを読み取る自動改札が新たに設置されていました。ここに搭乗券のバーコードをかざすとゲートが開いて中に入れます。恐らく不正搭乗券での通過を防止する目的なのでしょう。ただバーコードのかざし方の介助や、その先に複数ある検査ゲートへの誘導する係員が2、3名常駐しており、残念ながら人の削減にはなっていないようです。



図 ANA ビジネスクラスチェックインの列。カウンターまで30分待ち。

3) 飛行機移動：ANAエコノミークラス

(9) プレミアムエコノミーは常連客優遇から収益優先へ

以前は出発24時間前にプレミアムエコノミーも含めたシート変更オードが可能で、多くの場合で無償アップグレードができました。残念ながら、この方式は廃止され、事前オークション登録で追加金額を載せた順からアップグレードする方式になっていました。航空会社も新型コロナ禍による経営ダメージが大きいのか、仕方の無いことですが、大昔は空いていればビジネスクラスにも優待してもらえたのに…。

(10) 意外に外国人で満席に

RSNA期間前後のシカゴへの移動は日本の放射線部門関係者の需要があったとしても、基本は空席もそれなりにあったと記憶しています。今回は便数が減っていたせいや、行きも帰りもほぼ満席に近く、思いの外、日本人ばかりでなく外国人客の比率が高かったです。円安の影響でしょうか。

(11) 機内情報システムがより新しく

機内の情報システムは新しくなり、より高解像度のディスプレイが全席に搭載され、手持ちのスマホと連携することができるようになっていました。映画などのエンターテイメントについては連携したスマホの中でコンテンツリストが展開され、お気に入りを探して登録したり、スマホから再生操作したりできるようです（筆者は使いませんでした）。コンテンツ構成そのものは大きく変わっていませんでしたが、飛行中の位置情報を提供するスカイマップ機能は高解像度を生かした綺麗な画像で、操縦席視野のシミュレーション映像などもあり、見ていて飽きさせない内容に進化していました。

(12) 機内食の容器がプラスチックから紙素材へ

これはANA自身も謳っていましたが、機内食の容器がプラスチックから紙素材になり、環境対策を行っていることをアピールしていました。特に変更による使用上の問題はありませんでした。

(13) スナックご自由にどうぞコーナーがなくなる

以前はCA作業エリアに食事時間の間はスナックコーナーがあり、お菓子や飲み物を自由にとることができましたが、これはなくなりました。感染拡大防止と思われます。仕方がないので、この原稿を書いている間、何度かCAさんと呼んで飲み物をオーダーしましたが、その際に、ついでにいかがですか？とスナック菓子を勧めてくるスタイルになったようです。

(14) 千島列島とカムチャッカ半島上空を避けるルート

シカゴへの最短経路は、東京より本州上空、北海道上空を北上してオホーツク海や千島列島を縦断するルートでしたが、現在、ロシア領空の通過は不可能なため、羽田より太平洋側にいったん迂回し、ベーリング海に至るまで千島列島の太平洋側に距離を取って北上するルートを通っているようです。



図 機内のフライトマップ。画が綺麗に。千島列島を南に回避。

4) 米国への入国

(15) ESTA 2回目以降入国時のKIOSKシステムがなくなった

出発前に事前にESTA登録（2年間有効）は変わらず必要です。一方、以前は到着した際にESTA登録後初回は直接入国審査官カウンターで審査質問の他に指紋登録や顔写真撮影を、2回目以降はKIOSK端末で同様の登録をし、出てきたレシートを持って、入国審査官カウンターで簡単な質問、の経路でした。今回はKIOSK端末が米国人の再入国用で用意されていましたが、外国人は全員、入国審査官カウンターに直接進むよう指示されました。毎度ころころルールが変わるので、次回来たときはまた変わるかも？

(16) 税関申告書は入国審査官から手渡される

以前は機中で税関申告書が配られ、先に必要事項の記載をしましたが、今回は配布されず、入国審査官カウンターで「食べ物や種子、土は持ってないか」「現金をいくら持っているか」等の質問を受け、そこで審査官より税関申告書に判が押され、手渡されました。この後、荷物受け取りカウンターで申告書に必要事項を記載（ボールペン携帯必須）し、税関申告のゲートで係員に手渡せば、記載内容はまず一瞥もされず、入国完了となります。さて、筆者も荷物受け取りカウンターで手渡された税関申告書に記入しようとして愕然。なんと英語でも日本語でもない、全く読めない言語の申告書だったので。少々呆然としましたが、日本発着便はたいてい付近に日本人係官がいるものです。周りを見渡し、やっぱり、乗り継ぎ案内の日本人係員を発見。事情を説明し、再度入国審査官のブースと一緒に戻り、つい5分前と同じ質問にもう一回同じ回答をして、ようやく英語の申告書を得ることができました。皆さんも申告書が手渡された際には「読める言語か」をぜひ確認しましょう。

(17) 指紋採取と顔写真撮影がなくなった

これまで指紋登録と顔写真撮影は必須でしたが、今回は指紋登録や顔写真撮影はありませんでした。

パスポートの写真確認も、筆者側がマスクをとりましょうか？と言いたくなるくらい適当な確認でした。

(18) 運が悪いと事前提出した書類の再チェックがあるらしい

羽田空港でのチェックイン時に言われたことですが、運が悪いと書類内容チェックの抜き打ち検査に引っかかるようです。ANAのTravel Readyで事前登録した書類は紙面印刷して常備しておきましょう。

(19) 入国審査は空港毎に違いがあるので注意

以前より米国入国時は到着空港毎に審査手順のばらつきがあり、毎度面食らいます。これまでご紹介した手順はシカゴ・オヘア空港で今回体験した入国審査ですが、米国入国は全てこの手順で統一されていない可能性が高いことを補足しておきます。

(20) 入国後のマスク着用は超少数派に

税関審査を通過して無事入国すると、ほぼ全員マスクをつけていません。もちろん、つけていても全く問題ないですし、アジア系の人は比較的つけている人もいたと思います。筆者は個人的に(隙きの多い)日本人旅行者と自ら示す形にもなりかねないので、米国内では外していました。



図 シカゴ中心街のミレニアムパーク。マスクしている人は何人いますか？

5) シカゴでの移動事情

(21) タクシー（ウーバー、リフト含む）は多分値上げ

もちろん、タクシーや配車サービスのウーバー、リフトは健在で、入国後直ぐに捕まえて市街に移動する人も多いです。ただ、筆者は今回、シカゴ内での移動は車を使っておらず、単に新聞報道等での情報で恐縮ですが、ガソリン価格の上昇と物価高により、車での移動は1,2割の値上げを恐らく覚悟すべきでしょう。

(22) 電車（市街鉄道）はお値段据え置き

シカゴ市内はオヘア空港から市街に直結しているBlue Lineや、シカゴ南北の郊外から中心部の循環型高架線Loopを通るRed LineやGreen Line等、共通の低料金で利用できるシカゴ市街鉄道があります。1回券については空港購入のみ\$5。それ以外の駅では\$3で購入でき、乗り継ぎできればどこで降りても同じ金額です。しかも3年前と変わらず同じ運賃。ただ、言うまでもなくタクシーに比べて、セキュリティレベルは低いです。ブランド物や金目の物を身に着けたり、車中で寝たり(時差ボケがあったとしても)しないよう、気をつけて利用すれば、安くて良い移動手段です。



図 上：Blue Line。下：Loopと呼ばれる1897年から続く高架型環状線。

(23) 街中の徒歩移動は特に変化なし

シカゴは中心街としてシカゴ川を挟んで、北にRiver Northエリア、南にSouth Loopエリアがあり、東側のミシガン湖の湖畔も含めて観光地で人通りも多く、比較的安全です。このエリア外（特に南部は危険と言われています）や裏道等にわざわざ入らない限り、普通に歩くことは問題ないです。3年が経ち、特に危険性が増したとは思いませんでしたし、物乞いの数も特に増えてはいないと感じました。

(24) 店が新しく入れ替わっている

市街の店舗は当然新陳代謝があり、コロナ禍で撤退を決意した店舗も当然あるのでしょう。River Northを南北に貫くMagnificent Milesという大通りにあったDisney Storeが子供服店に変わっていました。同じ通りのWater Tower Place向かいにあったユニクロの店舗もなくなっていました。

(25) 温暖化の影響？零下にならない日も

今回RSNA年次総会初日の前日、11月26日土曜日に現地に到着しましたが、晴天で風も少なく（シカゴはWindy Cityと呼ばれるくらい風が強く吹く街と言われています）、気温も10度近くまで上がりました。例年0度前後の気温が普通で、こんなに暖かい日をRSNA期間中に経験したのは初めてだと思います。さらに、土曜日はブラックフライデーというセール期間だったせいか、Magnificent Milesは人で溢れかえっていて、まっすぐ歩くのもなかなか難しいくらいの賑わいでした。こんなに人が出ていた記憶も過去にはありません。



図 左：Macy's百貨店前。
右：The Wrigley Building前。多くの人で賑わう。

6) ホテル事情

(26) 部屋の清掃が2日に1回に

これは選んだホテルのサービスレベルの問題かもしれませんが、ホテルに掲示されていた説明によると、「物価上昇や人件費高騰の影響を受けて、経営努力はしているが清掃員不足により室内清掃は隔日になっているのでご了承下さい」とのことでした。もっとも、タオル類は2日分用意されていて、まったく支障はなく、むしろ円安のため高いチップを払う機会が減ってかえってよかったかな、と思いました。

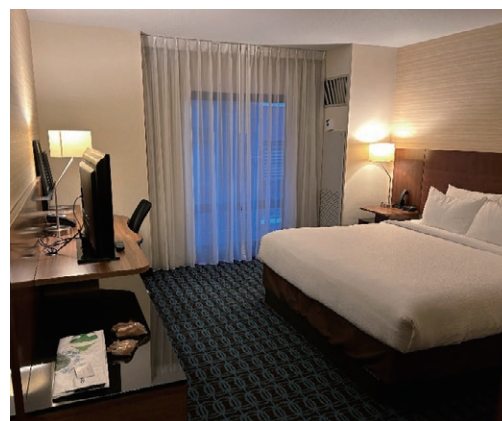


図 今回のホテルはRiver North西地区。悪くはないがMagnificent Milesに近いホテルは少々高め。

(27) エレベーターが2/3基しか動いておらず

これも同様ですが、掲示されていた説明によると、「整備会社とのスケジュール調整の都合上、整備が間に合わず、1基使えなくなっていますがご了承ください」とのことでした。物価高や人手不足という報道は日本でも見かけていましたが、その一介を垣間見た気がしました。

(28) レシートはメール送付が普通に

すでにオンライン予約は当時から当たり前でしたが、現地支払いにした場合にはチェックアウト時に紙面のレシートを渡されることもよくありました。今回のホテルはPDFファイルのレシートが添付されたメールが届く仕組みで、電子化がさらに進んだ気がします。

7) スーパーマーケット事情

(29) 食料品関係は若干（セント単位）の値上がり

米国内生産の食料品関係については、概ね以前よりもそれほど値上がった感じはしませんでした。ただ、値札を見ていると物によってはセント単位で¢40 → ¢90 と4の数字の線を若干丸くして9に修正している、等にも気づきました。



図 左：Trader Joe'sの売り場。右：ある日の夕食。ポテチから時計回りに約\$2、\$4、\$0.7、\$5、\$4。

もともと食品類は単価が低いので、50セント値上げでも消費者にとっては痛いかもしれません。

(30) 輸入品はそれなりに値上がり

一方で、輸入品は確実に値上がっていると感じました。例えばチーズ類を見ると、米国内産のものよりも輸入品は総じて1割くらい値上がりを感じました。輸送費高騰等の影響を受けているのでしょう。

(31) 酒類も同様だが、もともと安い？

酒類についても恐らく細かい値上げが行われていると思われませんが、ビールなどを見ても、以前から日本よりもかなり安いので、あまり上がった感じを受けないのが正直なところです。

(32) 円安で日本円での支払いは以前の1.3倍

物の値段でもっとも大きな変化を感じるのは、本体の細かな値上げよりも円安による日本円払いでの一律の金額増でしょう。2019年は110円前後でしたが、今回は140円、30%弱一律に高くなっていることとなります。とは言え、出張旅行者にとってはスーパーで食料を調達すると、レストランの3割以下の出費で食事ができる上に、米国のホテルは冷蔵庫がたいていあるので、量が多くても数日かけて消費できるので便利です。

8) レストラン事情

(33) もちろん「マスク飲食」の概念なし、10%程度値上がり？

今回、レストランでの食事もしましたが、完全に2019年までの状態に戻っており、満席の店内で皆さん普通に食事をしてつつ談笑をしていました。外国人にとって日本の「マスク飲食」がいかに奇異なお願いに映るか、よく分かります。ところで、物価高による値上がりについては、正確な違いは正直わかりませんでした。ただ、トータルでの支払金額で推察すると、チップ込みでだいたい1割くらいは値上げしたかなあ、という感覚です。高級店でない一般的なお店で、サラダ、メインにワイン2杯で、チップ込みで\$65というところ。さらに前菜をつけた日は\$90かかりました。もちろん一品ごとの量は多いので、何も考えずに前菜をつけてしまった日は、完全に頼み過ぎで大いに後悔しました。



図 レストラン風景。食事時は基本的に予約がないと待つくらい訪れたお店はどこも盛況でした。

9) RSNA会場にて

(34) Hybrid開催が基本に、In Person料金の設置

RSNA年次大会についてもコロナ禍を受けて2020年は完全On line開催を経験し、2021年よりIn PersonとOn lineのHybrid開催となりました。2019年まではIn Person参加料金が基本で、On lineでのVirtual参加がオプションで追加できました。今年は逆にHybrid参加が基本で、In Person参加だけの廉価料金(\$940)が新設されていました。Hybrid参加料金は\$1,200で、これは2019年のVirtualオプション付きと同じ金額だったと思います。

(35) 中国人と北米人が消えた

2019年は圧倒的な存在感があった中国人参加者が、ゼロコロナ施策や米中対立による影響を受けて、ほぼ姿を消したように思いました。アジア人は基本的に東南アジア諸国や日韓人をよく見かけましたが、日本人も決して多くはありませんでした。ある日本企業の展示ブースにいた営業担当者に話を聞いたところ、参加見送りをした日本の先生方の多くは、その理由として円安による渡航費と宿泊費の高さを挙げた、とのことでした。一方、意外にも北米地域の先生の参加も少ない、とも聞きました。北米地域の先生方は日常、シカゴ出張が珍しくなく、わざわざ学会参加で職場を離れ、寒いシカゴに移動しなくても、オンライン参加で事は足りる、ということが理由のようです。

(36) 企業展示ではAIコーナーを独立から一体化へ

2019年のRSNAでは、企業展示会場の南北2ホールと

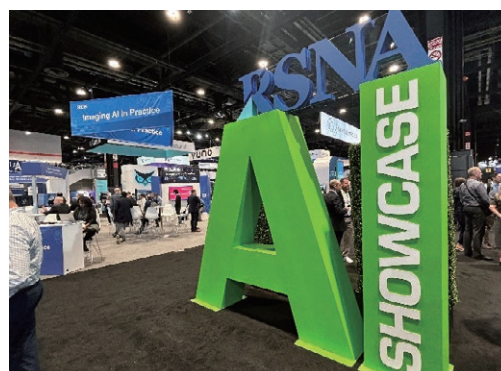


図 上：参加バッジの発行エリア。
下：展示会場内のAI Showcaseエリア

は別に、機械学習モデルを応用した製品を出展する企業をAI Showcaseというエリアに集めて1フロアを展示場に割り当てていました。しかし、今年は南ホールの企業展示の一角をAI Showcaseのエリアとして、企業展示の一部にしていました。中国を中心に出席企業数の減少も一因ではありますが、すでにAIや機械学習は多くの企業が製品搭載しており、特化した領域を設けるための境界線が、かなり曖昧になってきたため、とも推察できます。

(37) AI研究はモデル開発からいかに現場で使えるようにするか、ヘシフト

学会セッションで発表されたAI研究については、すでに2019年時点で単発のDeep Learningモデルを用いた診断支援に関する研究は減少し、複合的なモデルでの研究等にシフトしていました。画像診断の専門領域では、単発モデルの研究発表もあったようですが、少なくともMedical Informaticsのセッションにおいては、景色が変わったと思います。AIは学習用に与えるデータ品質に依存し、常に正確な判断はできない、という限界を受け入れ、その上でAIをいかに効果的に使うか、AIを用いる際の病院でのガバナンスはどうあるべきか、モデル作成や改善のためのデータ精度を担保するにはどうするか、AIとサイバーセキュリティ等、AIの使い方やその環境の研究に対象がシフトしていました。

10) 標準化団体の国際会議

(38) In person参加が半分程度に

今回3つの国際会議に参加しましたが、先ずIn Personでの参加者が半減した、という強い印象を持ちました。コロナ禍で会議はOn line参加が常態化し、移動を伴わず時間ロスが少ないこともあり、今後もこの傾向は続く可能性が高いのでしょうか。しかし、On line会議では、発話者が会議を独占することになり、ワイガヤ的な会話にどうしてもならないように思います。Hybrid開催でも、会場参加者の会話は弾み、一方でOn line参加者の発言機会は限定されるように思えました。国際会議はただでさえ言葉や文化の異なるメンバーが集合するため、より表情が見え、意思疎通が深まりやすいIn Personの会議を主体にすべきでは、と個人的には考えています。

(39) 会議室が一回り小さく

参加人数が減れば、当然大きすぎる会議室は不要となりますので、会議室の大きさが一回りかそれ以上小さくなるのは必然でした。参加メンバー間は距離が近く、より存在を感じる距離だったのですが、On line越しで直接会えないメンバーが多かったのは残念でした。

(40) 朝食の簡略化や省略

朝の会議では朝食のケータリングが毎年準備されていましたが、今年はフルーツと飲み物のみ、あるいはそもそもケータリングが省略された会議もありました。参加者が少なければ仕方のないことです。

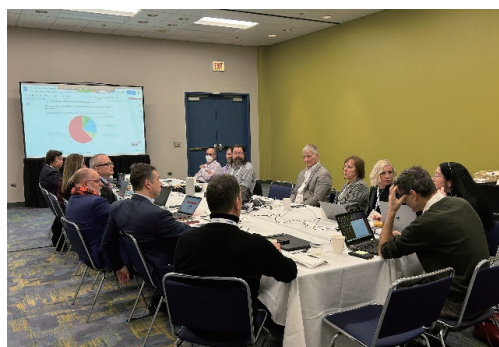


図 上：IHE International Board会議、一回りコンパクトに。
下：そこでは幸いにランチが出ました。

11) 米国からの出国

(41) チェックインの際にワクチン証明チェック

シカゴ・オヘア空港での帰国便チェックイン時は、係員がワクチン証明書の提示を求めてきました。事前にデジタル庁の Visit Japan Webシステムに情報は提示済ではありましたが、突然こういう確認の機会がありえるので、証明書アプリの準備、あるいは証明書を印刷して持っておいたほうがよいでしょう。

(42) 売店でチップを要求される？！

これも初めての体験でしたが、とある食品を扱う売店（カフェのように店内でサーブしてもらう形ではなく、カウンターで品物を買う形式）で購入した際に、レジのタッチパネル画面にチップ金額（15%、18%、20%）が表示され、いずれかを選んで支払ってくれ、と言われたのには閉口しました。この売り手さんは単にボックスから商品を取り出してカウンターに出しただけで、お世辞にも愛想も態度もよろしくなかったのですが、でも選ばないと先に進めないようなので、最低の15%を選択して支払いました。皆さんもそういうお店があるので、気をつけて。

(43) B16ゲート側に新たな売店エリアが出現

ANA羽田行きのゲートは相変わらずのB16でしたが、2019年には無かった新たな売店エリアが付近にオープンしていました。筆者は今回あまり時間がなかったので立ち寄れなかったのですが、行く機会がある方はぜひ覗いてみてはいかがでしょうか。

12) 日本への再入国

(44) 事前登録したVisit Japan Webシステムで青判定ならばスムーズに入国

羽田空港に到着後、飛行機を降りて入国審査ゲートまでの間のコンコースには、ピンクのTシャツを来た係員（日本人だけでなく、日本語が話せる外国人もいる）がたくさん待ち構えています。(3) で事前登録したVisit Japan Webサイトの検疫手続事前登録の画面を見せてください、と言われるので、スマホでその画面を出し、青い登録完了済の画面を見せると、ピンクの「健康カード」と言われる用紙を手渡され、確認済のレーンに誘導されます。ここで筆者の前にいた人はスマホのスクリーンショットを見せて「これではダメです」と却下されていました。機内で予めVisit Japan Webのサイトを開いて準備しておくのとよいでしょう。入国審査ゲートに近づくと「健康カード」を持っているかを確認する係員がおり、そこを越えれば、後は普通の再入国と同じになります。

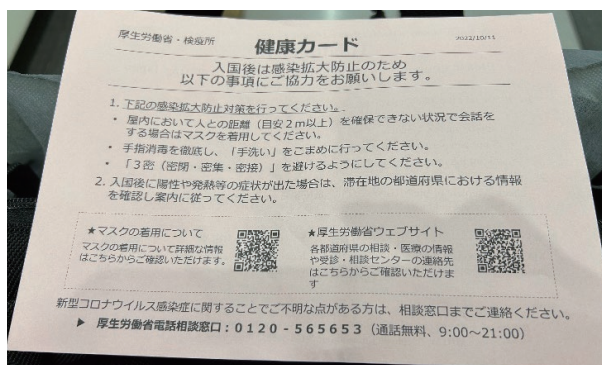


図 上：オヘア空港B16 Gate付近、右手が新エリア。
下：ピンクシャツの人から貰える健康カード

13) 最後に

あれこれと2019年の記憶と比較して、違いのあったことを挙げてきましたが、基本的に大きな変化としては出入国時のための事前手続きと、物価高や特に円安による懐へのダメージ、そして、学会や会議の参加がオンラインにシフトした、という3点でしょうか。でも、久しぶりに世界各国のメンバーがIn personで集い、再開を喜んで握手やハグをして会議に臨み、終了後も世間話や雑談で意思疎通する…。筆者は決して英語は達者ではないし、3年ぶりで英単語もろくに出てこない有様ではありましたが、今回も実際に現地に行くことで、より組織内での日本のプレゼンスを高め、国際メンバーとの結びつきを再認識することにつながりました。この点においては何も変わっていませんでした。オンライン会議はボタン一つで国際会議に参加でき、ボタン一つで直ぐに抜けて次の作業に移れますが、何か人とのつながりという意味では足りない面を感じます。日本の若者が海外に留学しなくなったと言われて久しく、コロナ禍がさらに拍車をかけているように思えます。筆者よりも若い日本の人たちがどんどん世界に飛び出し、Virtualではなく、In Personで国際メンバーと机を囲み、顔を見ながら話をする経験をぜひしてもらいたいと思います。そこで築いた人との繋がりは、次の新しい機会をもたらし、成長に繋がる大きな力を与えることでしょう。今回の出張のようにJAHISでは国際会議に関わる機会があります。ぜひ意欲のある若者に積極的に参加してもらえればと願っております。



図 IHE EU (Austria) の仲間 (右) と食事。それぞれの国の話を着に。こういう機会が大切！

2022年11月21日、 厚生労働大臣表彰を受けました

事務局長

まのまこと
真野 誠



2022年11月21日、都庁にて「令和4年度統計功労者表彰伝達式」が行われ、JAHISは、厚生労働大臣表彰を受けました。

表彰は、「東京都知事表彰」、「東京都知事感謝状贈呈」、「総務大臣表彰」、「厚生労働大臣表彰」があり、「厚生労働大臣表彰」以外は、各種統計調査を行う調査員の方に対する表彰であり、JAHIS等の統計調査に協力した事務所に対しては、「厚生労働大臣表彰」が贈られました。

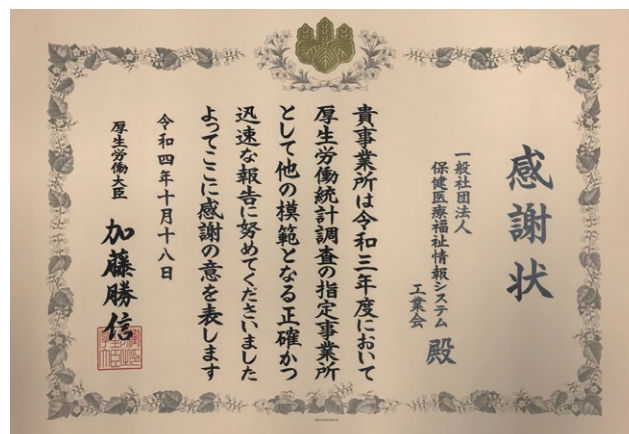


「授賞式の様子」：君が代の斉唱から始まり、厳かな感じの式典でした。

「東京都知事表彰」があるので、小池百合子都知事からの表彰を期待したのですが、あいにくと欠席で、東京都の総務局の方からの表彰でした。

ちなみに、「厚生労働大臣表彰」は、厚生労働省 岸本政策統括官（統計・情報政策、労使関係担当）からの表彰でした。

JAHISとしては、感謝状と副賞の記念品を頂きました。



この「感謝状」ですが、授賞式は11月21日なのに、感謝状の日付は、10月18日となっています。何かの間違いかと思いましたが、そうではありませんでした。

この10月18日は、我が国における「統計の日」とのことでした。

「統計の日」とは、我が国最初の近代的統計である「府県物産表」に関する太政官布告が公布された日、すなわち、明治3年9月24日（太陰暦）が、現行の太陽暦では10月18日に当たることに由来し、統計の重要性に対する国民の関心と理解を深め、統計調査に対する国民のより一層の協力をいただくことを目的として定められたそうです。

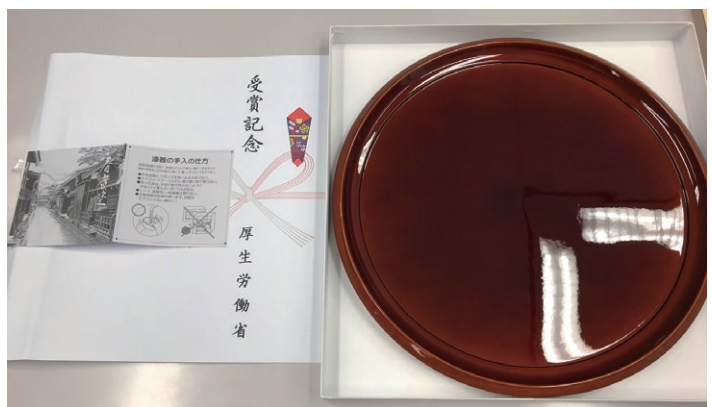
この「統計の日」を感謝状の日付にすると、国も少しは粋なところがあると感心しました。

副賞は、記念品として、立派な漆塗りのお盆を頂きました。

最近では、来客に対してペットボトルのお茶しか出さないJAHISには、不釣り合いな代物ですが、何かあった時には活用しようと思っています。

しかし、素晴らしいお盆です。

JAHISにお立ち寄りの際には、事務局メンバに声を掛けて頂ければ、いつでも見ることが出来ます。



さて、実際にJAHISが令和2年7月～令和3年12月までの間、提出してきた統計について、若干説明させていただきます。

様式は、下記の様な感じです。

内容としては、従業員数、出勤日数、労働時間数、給与額、残業代、賞与額 等を毎月集計して毎月報告しました。統計帳票作成のプログラムがある訳ではないので、地味に面倒な作業だなと感じながら対応して来ましたが、これで表彰されるとは思っても見ませんでした。

1. 主要な事項又は事業の概要等(可なり)		2. 調査期間中の事業活動の行った期間(可なり)		3. 調査対象の従業員数(可なり)		4. 調査対象の労働時間数(可なり)		5. 調査対象の給与額(可なり)		6. 調査対象の残業代(可なり)		7. 調査対象の賞与額(可なり)	
工業名	20	調査期間	2021年7月1日～2021年12月31日	調査対象の従業員数	13	調査対象の労働時間数	110	調査対象の給与額	9999	調査対象の残業代	9999	調査対象の賞与額	9999
調査期間	2021年7月1日～2021年12月31日	調査対象の従業員数	13	調査対象の労働時間数	110	調査対象の給与額	9999	調査対象の残業代	9999	調査対象の賞与額	9999	調査対象の残業代	9999

この統計が、何かの役に立つのであれば、嬉しい限りです。

統計の重要性は、医療の世界でもよくわかっていますので、今後とも、この様な統計の依頼があった場合には、「統計の日」の意味を思い出しながら、出来る限り協力しようと思いました。

JAHIS

2023年オンライン新春講演会

第28回JAHIS新春講演会を2023年1月18日（水）に開催しました。今回も残念ながら新型コロナのまん延防止のため、昨年に続きオンラインにて配信することとなりましたが、200名の会員及び関係各位の皆様にご参加いただきました。

講演会当日のプログラムは、下記のとおりです。下山 総務会 会長、森田 JAHIS会長の年頭挨拶に続き、厚生労働省（田中 彰子 医政局参事官）、経済産業省（飯村 康夫 ヘルスケア産業課企画官）、一般財団法人 医療情報システム開発センター（山本 隆一 理事長）から年頭のメッセージをいただきました。

その後、毎年恒例の「年頭にあたって」というテーマで、大原 運営会議 議長の講演がありました。特別講演では、元Google米国本社副社長 兼 Google日本法人代表取締役社長の村上 憲郎様から、「世界のヘルスケア業界における最新のIT動向」のお話をいただきました。人類がIT化によって、アンドロイド化していく生々しいお話は、記憶に残るものとなりました。

村上様のご講演後には、村上様、山本理事長、先崎JAHIS副会長による鼎談が行われました。先の山本理事長のお話の中にもありましたが、医療のIT化において、日本が世界から大きく後れをとっていること、新型コロナ禍での感染人数の計測ができなかった理由のひとつは、医療従事者のデータ入力に大きな負担をかけてしまったことであり、データ利活用を推進してきた医療IT関係者の敗北であったとのことご意見は、業界人にとって、大変耳の痛い話となりました。しかしながら一方では、JAHISの進むべき道は同じであり、あらゆる医療施設で容易に利用できるシステムの徹底した社会実装を実現するために、引き続き日本の医療DXと一緒に推進していこうというお言葉は、JAHIS関係者にとっても大いに勇気づけられるものとなりました。最後は大川 総務会 副会長による閉会挨拶で締めくくりました。

記 寺崎 貴宏

JAHISオンライン新春講演会 プログラム

(1) 開会挨拶	総務会 会長	下山 赤城
(2) 会長挨拶（ビデオレター）	会長	森田 隆之
(3) 来賓挨拶	厚生労働省 医政局参事官 経済産業省 ヘルスケア産業課企画官 一般財団法人 医療情報システム開発センター 理事長	田中 彰子様 飯村 康夫様 山本 隆一様
(4) 講演「2023年の年頭にあたって」	運営会議議長	大原 通宏
(5) 特別講演「最新IT動向と医療DXの展望」	元Google米国本社副社長 兼 Google日本法人代表取締役社長 / 前グーグル日本法人名誉会長	村上 憲郎様
(6) 村上憲郎様、山本隆一様、先崎心智 （JAHIS副会長）の鼎談		
(7) 閉会挨拶	総務会 副会長	大川 義人
司会進行		田村 あゆち氏

トピックス



総務会 会長 下山 赤城



会長 森田 隆之



厚生労働省 参事官 田中 彰子様



経済産業省 企画官 飯村 康夫様



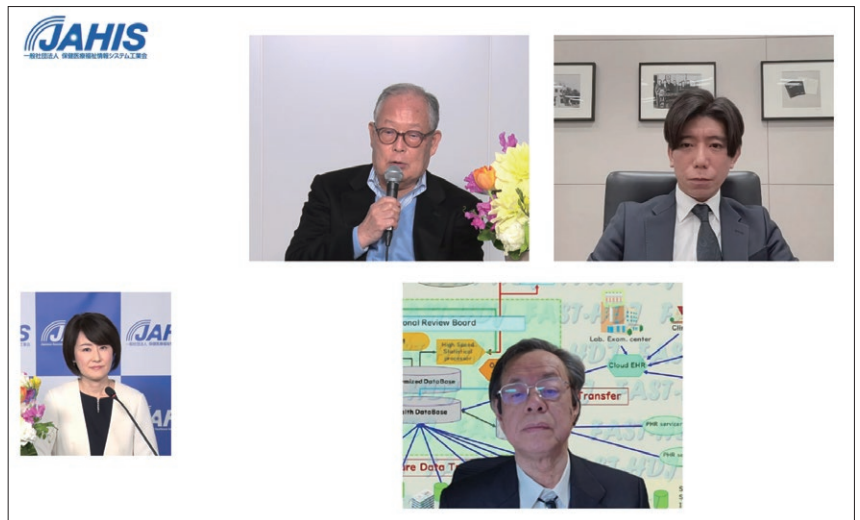
(一財) 医療情報システム開発センター
理事長 山本 隆一様



運営会議議長 大原 通宏



元Google米国本社副社長 兼 Google
日本法人代表取締役社長 / 前Google
日本法人名誉会長 村上 憲郎様



右上：先崎 JAHIS副会長、左上：村上様、下：山本理事長



総務会 副会長 大川 義人



司会 田中 あゆち氏



オンライン配信風景

事務局 総務部 新しいパンフレットができました

当会では入会促進用パンフレットを隔年で刷新していますが、今回装いも新たにパンフレットを制作いたしました。多くの皆様にJAHISにご入会いただくべく大判で見やすくした他、JAHIS活動をより詳細に紹介するため内容にも検討を加えました。

今後、会員の皆様や各種イベント会場でも配布する予定です。会員の皆様にもこのパンフレットをご活用いただき、是非多くの企業にお声がけいただけますようお願いいたします。

尚、当パンフレットは当会HPにてもご提供しています。詳細は事務局総務部にお問い合わせください。

JAHISの提言が骨太方針2022に採用されました。

6月15日に閣議決定された「経済財政運営と改革の基本方針2022」(骨太方針2022)に、JAHISが提言した「医療情報システム産業の発展」が盛り込まれました。

JAHISが提言した「医療情報システム産業」

- 「医療情報システム産業」(医療情報システム産業)
- 「デジタル化の促進を図り、医療情報システム産業の発展を図る」
- 「デジタル化の促進を図り、医療情報システム産業の発展を図る」

西側の審議会、ワーキングへの委員選出の反映や、保健医療福祉分野における政府-業界の早期の情報入手など、メリットは様々。

会員状況

■ 会員構成 (資本別)

100%以上100%未満	7%
100%以上100%未満	12%
100%以上100%未満	24%
100%以上100%未満	22%
100%以上100%未満	35%

■ JAHIS会員の業種 (業種別)

医療情報システム産業	71%
その他	29%

入会案内・お問い合わせ先

一般社団法人 医療情報システム産業 事務局
東京都港区新橋1丁目1番1号10F (新橋15) 1501
電話 03-5566-8070 Fax 03-5566-8070
http://www.jahis.jp/

入会案内はこちらから



JAHISとは

【JAHIS】は一般社団法人 医療情報システム産業 会
Japanese Association of Healthcare Information Systems Industry の英語略称です。

JAHISは、1994年4月に発足してから、以下のような取り組みを継続・実践しています。

- 業界の発展、普及、国際化に向けた取り組み
- 業界の発展、普及、国際化に向けた取り組み

JAHIS入会のメリット

- 業界の発展、普及、国際化に向けた取り組み
- 業界の発展、普及、国際化に向けた取り組み

JAHIS2030ビジョン

JAHISは、行政・学会・産業界と連携を取り、活動の推進、強化を進めています。

ご挨拶

一般社団法人 保健医療福祉情報システム工業会 運営会議議長
(日本電気株)

おおはら みちひろ
大原 通宏



会員の皆様におかれましては、平素よりJAHISの事業運営にご協力、ご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。新年にあたり、一言ご挨拶申し上げます。

2020年に国内初のCOVID-19感染症の患者が発生して以来、国民生活に多大な影響がでておりましたが、ワクチン等の普及もあり、ようやく日常を取り戻しつつあります。医療従事者の方をはじめとして、感染拡大防止に継続して取り組んでおられる全ての皆様に、心より感謝申し上げます。

そのような中、昨年6月に閣議決定された「骨太方針」では「全国医療情報プラットフォームの創設」、「電子カルテ情報の標準化等」及び「診療報酬改定DX」が明記されました。JAHISが提案した「診療報酬改定DX」が「骨太方針」に反映されるという非常に意義ある一年であったと思います。

一方で、サイバーセキュリティについても、大きな問題になった年でもありました。我が国の医療DXを推進するためにも、これまで以上に産官学が連携して、この問題に対して取り組む必要があります。JAHISも産業界を牽引する一員として積極的に関与して参りたいと思います。

今年の運営方針は、先の新春講演会においてお話ししました、以下の3点です。

- ・2030ビジョンで描くヘルスケアICTの実現に向けた推進
- ・JAHIS参画価値の追求、健全な市場の維持・発展
- ・JAHISブランドの向上、永続的な運営基盤の確立

中でも、「JAHIS参画価値の追求」は非常に重要と考えております。会員の皆様共通の課題対応を迅速に行い、サービスの充実を図る等、JAHISに参加する価値を追求することは、今後もさらにJAHIS活動を活発に進めていくため、また、個社においてJAHIS活動の意義を今一度認識していただくためにも、しっかりと取り組んで参ります。

2023年は「骨太方針」に記載された「医療DX推進本部」の下で、昨年から動き始めた「診療報酬改定DXタスクフォース」、「電子カルテ・医療情報基盤タスクフォース」の対応や、電子処方箋やマイナ保険証への対応等、医療DXを担う様々な取り組みが本格化します。今後も、データ利活用の提言や啓発活動、標準化を通して、「2030ビジョン」の実現に取り組み、データ循環型社会による「健康で安心して暮らせる社会」の実現を目指し、活動を推進して参ります。

本年も、一層のご支援、ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。

オンラインセミナー・ 女性会員交流会の取り組み

総務会
女性活躍TFリーダー

きど す み こ
木戸 須美子



1. はじめに

JAHIS会員の皆様には、平素より総務会が運営しております企画や事業にご協力いただき厚くお礼を申し上げます。総務会女性活躍TFが中心となって開催した女性会員限定の「JAHISオンラインセミナー・女性会員交流会」の取り組みについてご報告させていただきます。

この新たな取り組みは「JAHISに参加しても女性の知人が増えない。そもそも女性に出会わない」という女性会員の一言から始まりました。

2. まずは女性を集めよう

JAHISには部会、委員会、WGなど、企業の枠を超えて同じ課題を共有し、解決に向けて協議・検討を行うグループが多くあります。それらに参加し活動する中で得られた人脈や、企業ごとの課題解決アプローチの違いは、業務を進める上でも、プライベートな面でも大変参考になります。

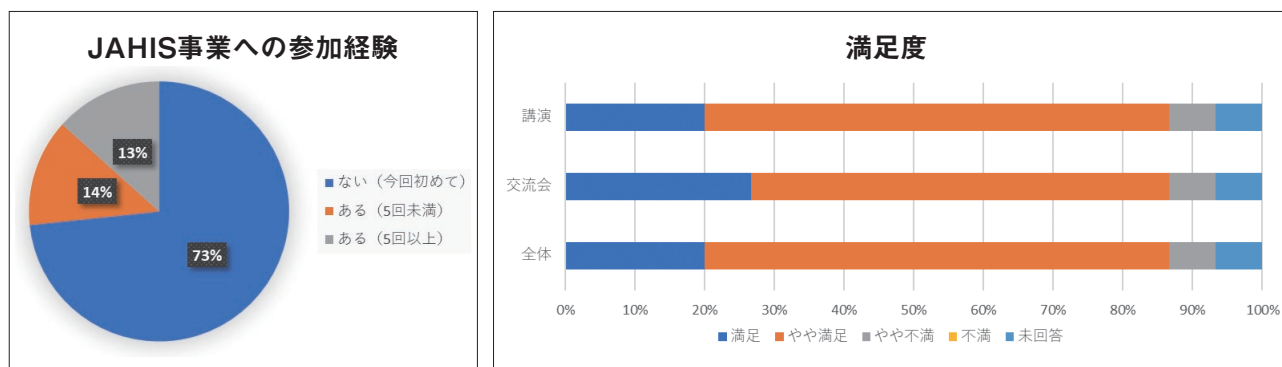
しかし、多くのグループの参加は男性ばかり、女性が2名以上参加するグループは希少です。なぜ女性が少ないのか。会員企業の男女比率も女性が少ないですが、その比率に比べても少なすぎます。JAHIS活動に女性の参加が少ない理由が企業側にあるのか、女性にとってJAHIS活動が魅力的ではないのか…。

まずは、女性の声を聴く必要があると考え、女性向けセミナーを開催し、セミナー参加をJAHIS事業への参加のきっかけにしてもらうことから開始することとしました。

3. 初回セミナー

有志の女性会員3名で2021年8月に企画検討を開始しました。女性会員に、自身のおかれている状況、困っていること、JAHISに求めるものを聴くためのセミナーです。本来ならば対面での意見交換が望ましいのですが、コロナ禍であること、広い地域からの参加も可能なことから「JAHISオンラインセミナー・女性会員交流会」とすることとしました。“女性限定”はJAHISとしては初の試みです。

鹿児島大学病院 医療情報部 教授・部長（兼）特命副委員長 宇都由美子先生をお招きして「医療現場の今昔物語と女性SEへの期待」というテーマで50分間講演いただき、その後30分間の意見交換会を実施しました。アンケート結果は以下のようになっています。



<講演>

- ・先生の豊富な経験に基づく講演内容は興味深く、女性SEへ期待することやアドバイスには説得力があり勉強になりました
- ・困難の乗り越え方や家庭との両立の工夫、キャリアの考え方についてもっとお伺いしたかったです

<交流会>

- ・交流会の時間をもう少し長く設定していただくか、オフラインでの交流をやっていただきたい
- ・他社の女性SEと関わることがほとんどないため、交流会は大変有意義な時間でした

図 2021年度企画 アンケート結果 (JAHIS事業への参加経験と満足度、参加者コメント)

4. 2022年度企画

初回セミナーのアンケート結果を受けて、2022年度の企画を4月から開始しました。企画担当メンバーも前回の参加者の中から新しく2名が加わり、5名となりました。

1) 年間企画の実施

アンケートで寄せられた以下の意見に着目しました。

- 交流会はもう少し時間を長く設けて欲しい
- 社内に女性は少なく、他社の女性SEとの交流会は勉強になるのでとてもいい
- 現役女性SEのキャリアプランについて実体験を交えた話が聞きたい

社内に女性が少なく、ロールモデルがないためにキャリアプランが描けないのであれば、社外の人とのつながりの中で学び・考える機会を多く提供することを目指すこととしました。検討の結果、単発的な開催ではなく、1年間を通して定期的な開催とし、交流会を60分に拡大した企画としました。講師は全回通して東京医科大学病院 経営企画室 係長 樋口由布子氏に依頼しました。

メインテーマ：ワンランクアップ！医療現場での仕事術

～ユーザから頼られるパートナーを目指して～

- | | |
|-------------------------------|-------------|
| 第1回：医療情報担当者の視点を知ろう！ | 2022年9月開催 |
| 第2回：環境が変わってもスキルを活かす方法 | 2022年12月開催 |
| 第3回：私たちが良い仕事をするために～医療現場から学ぼう～ | 2023年2月開催予定 |

2) チラシの作成

案内・募集用にチラシを作成しました。単独のセミナー企画にチラシを用意することもJAHISでは初めてのことで、さらにチラシは、参加対象者である女性会員向けのチラシと、その上長である管理職/教育担当者向けのチラシの二種類を作成しました。

女性会員とその上長では、企画に対しての訴求ポイントが異なります。女性会員向けには、参加によって得られる事や、交流会が楽しく有意義なものであることを伝える目的で作成しました。上長向けには、管下の女性を参加させるメリットや女性活躍推進のメリットを盛り込み、参加申請の添付資料としても使用できるものとししました。



図 2022年度企画 募集チラシ（女性会員向けと管理職/教育担当者向け）



図 樋口由布子氏による講演の様子
(左から、樋口由布子氏、木戸TFリーダー)



図 リモート参加者との交流会の様子

3) アンケート結果

第1回・2回のアンケート結果は以下のようになっています。

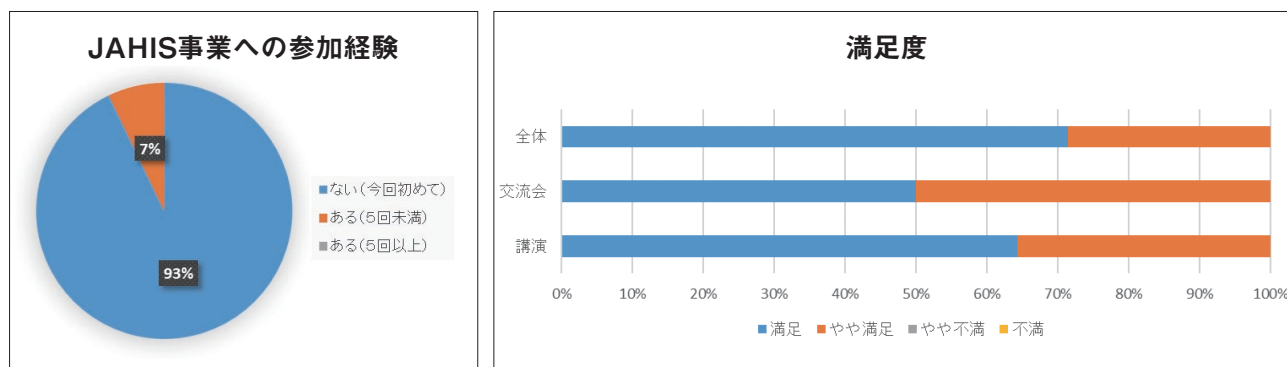


図 2022年度第1回企画 アンケート結果 (JAHIS事業への参加経験と満足度)

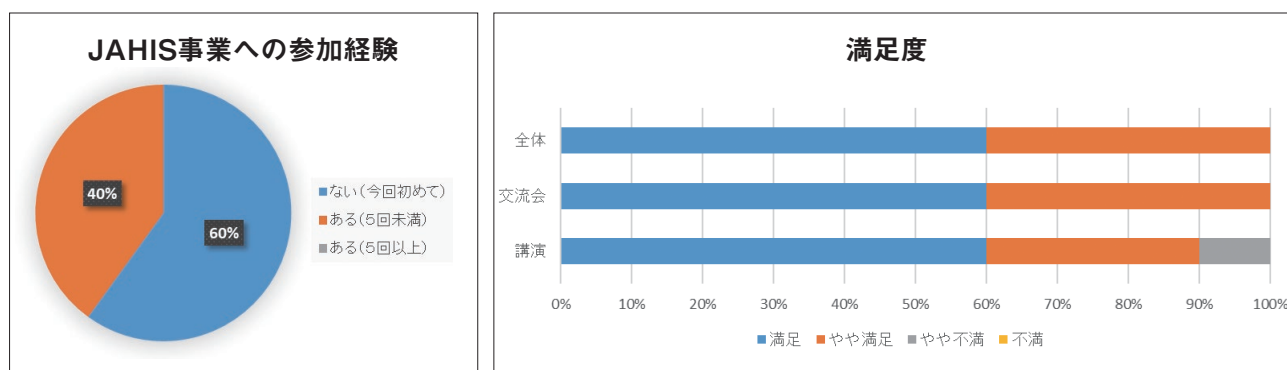


図 2022年度第2回企画 アンケート結果 (JAHIS事業への参加経験と満足度)

また、ポジティブなコメント、次回企画の参考となるコメントもいただいています。

<講演>

- ・講師の先生のお話が興味深く、自身のキャリアを考えていく上で大変参考になりました
- ・情報担当者の視点やあるある等を教えていただき面白かった
- ・病院の情シスさんと更にコミュニケーションをはかり、信頼関係を築いていきたいと思った

<交流会>

- ・幅広いキャリアを積まれた方々と会話でき、今後の選択の幅が広がる良い機会でした
- ・医療ITに従事している女性と交流できる貴重な機会で、新しい価値観に触れることができた
- ・女性会員限定ということで、話しやすく、和気あいあいと会話できた

5. 今後の活動に向けて

本企画は今後も継続する予定です。企画メンバーからは既にいくつもの案が出されており、今年度のアンケートを参考にしながら、更に良い企画を提供できるように活動していきます。来年度の企画に向けてのご意見・ご提案などありましたら、ぜひご連絡ください。

今後も総務会の運営、女性活躍TFが主催します企画・事業にご協力いただきますよう、宜しくお願い致します。

ヘルスソフトウェアを対象とした 国際標準規格のJIS制定について

安全性・品質企画委員会 委員長
(日本電気㈱)

おかだ しんいち
岡田 真一



1. はじめに

「ヘルスソフトウェアの国際規格をJISにする計画があるのですが、プロジェクトグループ (PG) の主査をやりませんか？」ISO TC215 JWG7国内主査の中里さんから声掛けがあったのは2021年7月のことでした。以後、中里さん、PMDAの関水さんを始め、この分野のエキスパートの皆さん、日本規格協会の方々にご指導をいただきながら、完遂することができました。

今回JAHISが担当した規格はJIS T 81001-1とJIS T 81001-5-1の2つです。原案としている国際標準規格と担当者を表1にまとめました。

JIS規格	原案規格	PGの役割担当 (JAHIS役職)
JIS T 81001-1:2022 ヘルスソフトウェア及びヘルスITシステムの安全、有効性及びセキュリティ －第1部：原則及び概念	ISO 81001-1:2021 Health software and health IT systems safety, effectiveness and security- Part 1: Principles and concepts	主査：岡田 真一 (安全性・品質企画委員会 委員長) 副主査：金光 暁 (安全性・品質企画委員会 副委員長)
JIS T 81001-5-1:2022 ヘルスソフトウェア及びヘルスITシステムの安全、有効性及びセキュリティ －第5-1部：セキュリティ－製品ライフサイクルにおけるアクティビティ	IEC 81001-5-1:2021 Health software and health IT systems safety, effectiveness and security - Part 5-1: Security - Activities in the product life cycle	主査：金光 暁 (安全性・品質企画委員会 副委員長) 副主査：岡田 真一 (安全性・品質企画委員会 委員長)

表1 JIS規格・原案規格と担当者

2. JIS制定の目的

世界中に広がるサイバーセキュリティの脅威に対して、2020年3月に国際医療機器規制当局フォーラム (IMDRF) において、「医療機器サイバーセキュリティの原則及び実践に関するガイダンス」(以下「IMDRFガイダンス」と記します) が取りまとめられました。日本国内でもこのガイドラインに沿った対策を2023年中に行うべく検討が進められています。

原案である、ISO 81001-1とIEC 81001-5-1は、サイバーセキュリティの脅威に対応するために開発された国際標準規格です。これらのJIS制定は、IMDRFガイダンス準拠のための各種基準等の改正

の一環として計画されたものです。

以下 この2つのJIS規格の概要をご紹介します。

3. JIS T 81001-1の概要

(1) ヘルスソフトウェアは医療機器ソフトウェアを含む

日本で「ヘルスソフトウェア」というと、健康目的を中心とした医療機器ではないものと解釈される場合がありますが、JIS T 81001-1では、「ヘルスソフトウェアは医療機器ソフトウェアを含む」と定義しています。

図1は横軸が医療機器として使用するかそれ以外の健康目的か、縦軸はパソコンやスマホなどの汎用プラットフォーム上で動作するものかそれとも専用ハードウェア上で動作するものかを示したものです。

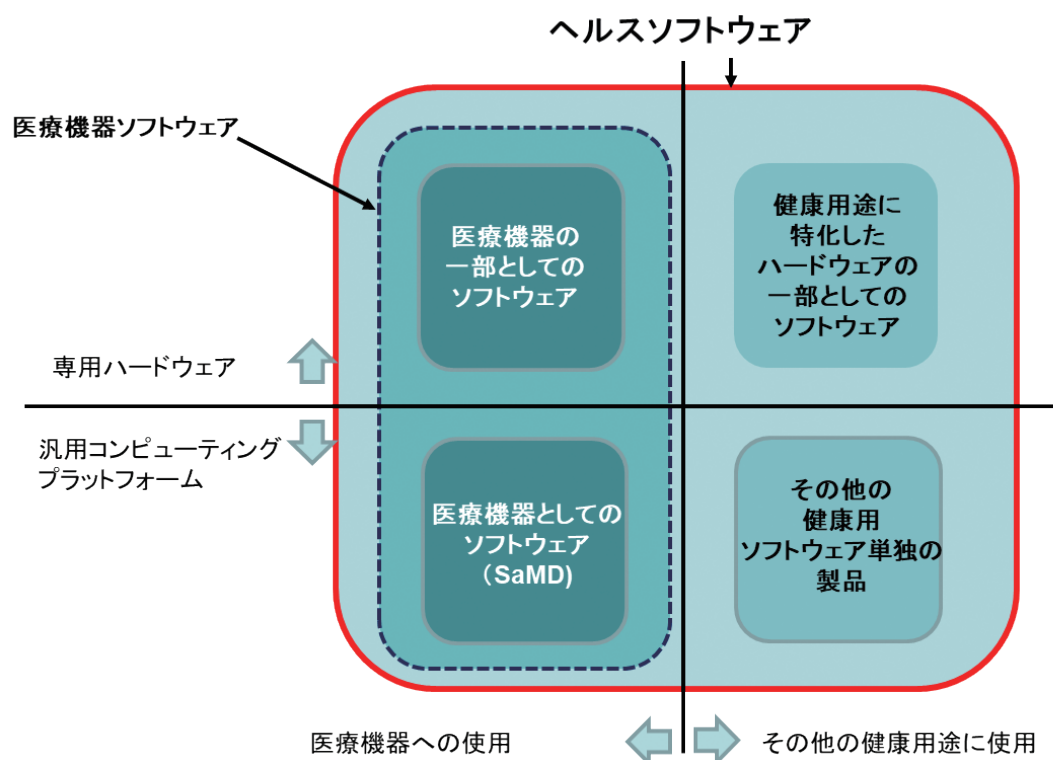


図1 ヘルスソフトウェアの対象範囲

この図の中で、全体がヘルスソフトウェアで、医療機器ソフトウェアは左側の部分になります。

用語としては、ヘルスソフトウェアなど健康情報や技術に関する用語の他、組織、人、役割に関する用語、主要特性やプロセスに関する用語が定義されています。

(2) ヘルスソフトウェアの概念

図2のようなヘルスソフトウェアやヘルス ITシステムの安全、有効性及びセキュリティを扱うライフサイクルの枠組みが示されています。

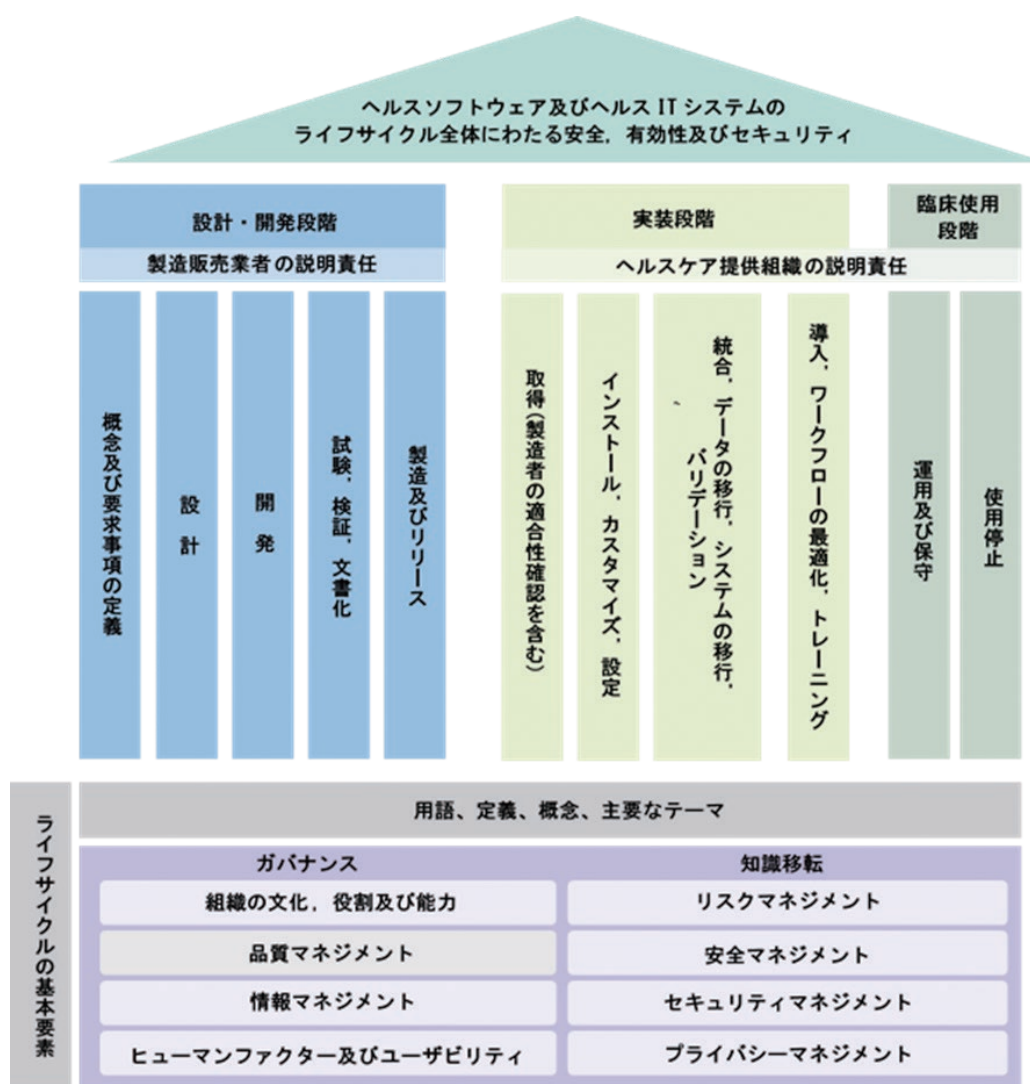


図2 ヘルスソフトウェアやヘルス ITシステム ライフサイクルの枠組みと要素

JIS T 81001-1は、この図の下方の「用語、定義、概念、主要なテーマ」、「ライフサイクルの基本要素」を中心に記載しています。

この中から2つの特徴的な概念をピックアップします。

①社会技術的エコシステム

ヘルスソフトウェアやヘルスITシステムの周りには、ヘルスケアを提供する状況があり、さらにその周りには地域社会のニーズ、規制・方針、資金調達などのより広い環境があり、それらはさらに世論などの外部環境に囲まれています。ヘルスソフトウェアやヘルスITシステムはこれらの何重にもなったエコシステムに影響を受けるということが記されています。

②システムオブシステムズ

ヘルスITシステムは複数のコンポーネントによって構成されていることがほとんどですが、そのコンポーネントもいくつかのコンポーネントで構成されている場合があります。このようにヘルスITシステムが入れ子構造になっていることが記述されています。製品のライフサイクルにおいては組み込

まれているコンポーネントのライフサイクルが製品全体のライフサイクルに影響を与えうることが記載されています。

(3) 知識移転

ヘルスソフトウェアのライフサイクルでは、多くのステークホルダーが関係してきます。JIS T 81001-1ではこれらのステークホルダーの定義と役割を記載しているのに加えて、ライフサイクルでのフェーズの移行点で誰が誰に何をすべきかについても記載されています。(図3)

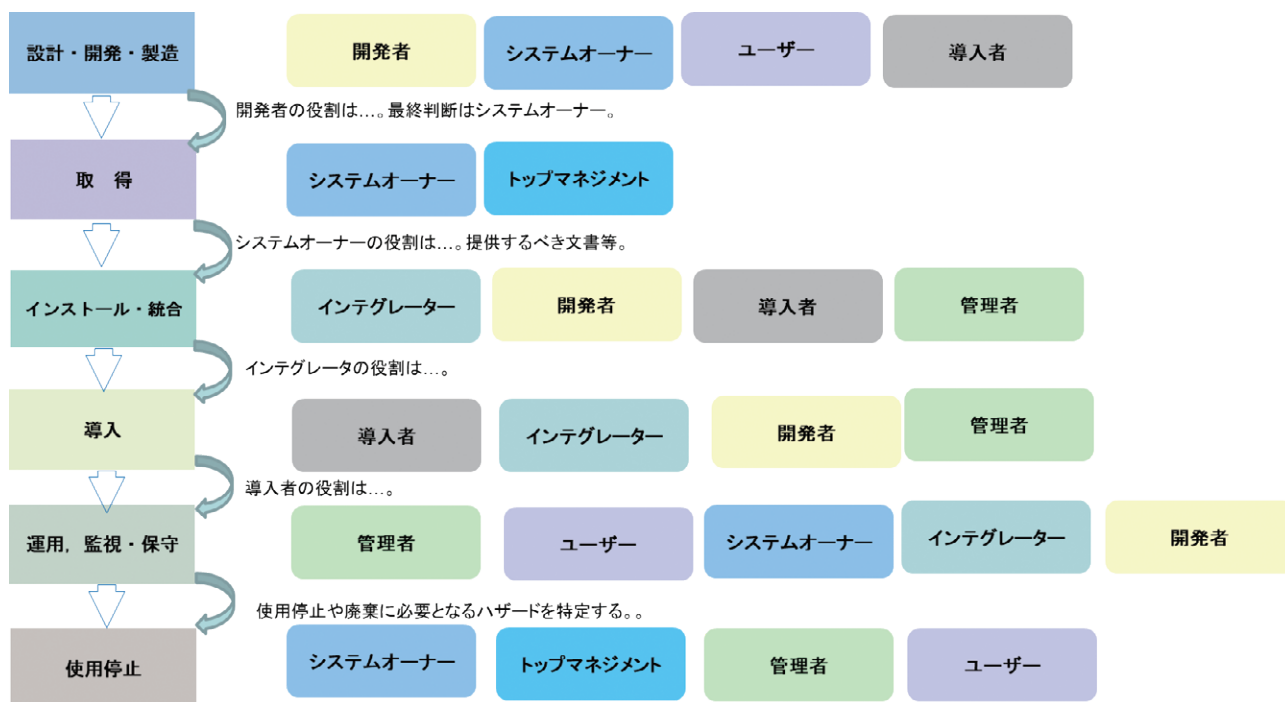


図3 ステークホルダーの役割とライフサイクルの移行点

4. JIS T 81001-5-1の概要

JIS T 81001-5-1は、JIS T 81001-1に記されている「ヘルスソフトウェア」を始めとする用語定義や基本概念を引用しています。

(1) ライフサイクルにセキュリティ要件を盛り込んだ規格

JIS T 81001-5-1はヘルスソフトウェアの開発から廃棄までのライフサイクルにおいて、どのようにセキュリティを組み込むかを記載しています。

ライフサイクルは、医療機器ソフトウェアのライフサイクルの規格であるIEC 62304 (JIS T 2304) をベースとしており、IEC 62304の章立てを使用しています。

セキュリティ規格は、工場やプラントで使用される制御システムの規格である IEC 62443-4-1 から、セキュリティの要求事項を組み込む形式をとっています。(図4) 組み込みの際に、工場用の規格のままでは適用が難しい箇所はヘルスソフトウェア向けに修正しました。

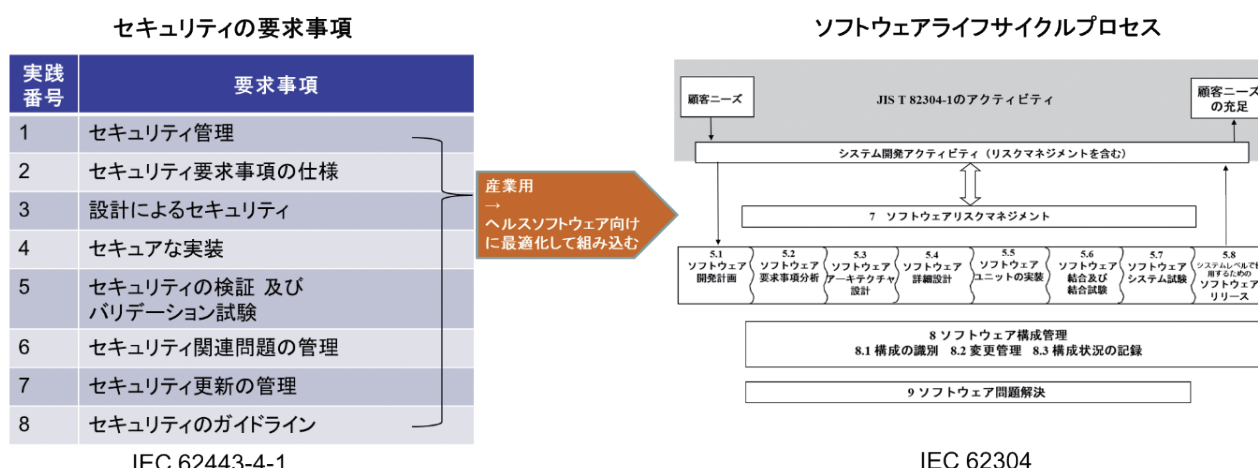


図4 JIS T 81001-5-1の構成

(2) ソフトウェアアイテムの区分

リスク移転の観点から、サードパーティ製のソフトウェアを含めたソフトウェアアイテムを3つに区分しています。

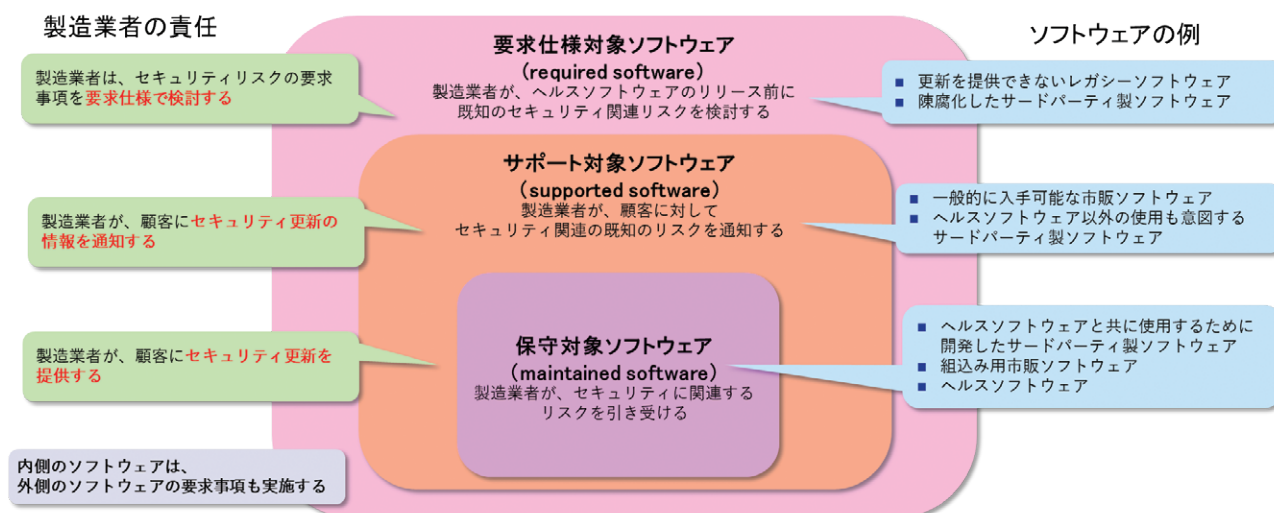


図5ソフトウェアアイテムの区分

①保守対象ソフトウェア

製造業者が開発したヘルスソフトウェアや、そのヘルスソフトウェアと一緒に使用するために開発したサードパーティ製のソフトウェアは「保守対象ソフトウェア」とし、製造業者がセキュリティの更新を提供することが求められます。

②サポート対象ソフトウェア

製造業者が開発したヘルスソフトウェアと一緒に使用されるが、それ以外の目的にも使用されるサードパーティ製のソフトウェアは「サポート対象ソフトウェア」とし、製造業者が顧客にセキュリティの更新情報を通知することが求められます。

③要求仕様対象ソフトウェア

サードパーティ製のヘルスソフトウェアがサポートを停止しているなどの場合は、「要求仕様対象ソフトウェア」とし、製造業者がセキュリティリスクを要求仕様で検討することが求められます。

これらの3区分の関係は図5のようになります。

(3) トランジションヘルスソフトウェア

JIS T 81001-5-1の発行前に開発され、すべての要求事項には適合していないヘルスソフトウェアをトランジションヘルスソフトウェアとして定義しています。「移行途中の」という意味合いです。トランジションヘルスソフトウェアについては「この規格書の一部に適合することでこの規格に適合するとしてよい」としてその適合すべき「一部」を規定しています。

5. 今後について

薬機法の基本要件規準について、下記改正が予定されています。

IMDRF ガイダンスにおいて取りまとめられたサイバーセキュリティを確保するための要件として、

- (1) 製品の全ライフサイクルにわたって医療機器サイバーセキュリティを検討する計画を備えること
- (2) サイバーリスクを低減する設計及び製造を備えること
- (3) 適切な動作環境に必要となるハードウェア、ネットワーク、IT セキュリティ対策の最低限の要件を設定すること

の3つの観点の基本要件基準に盛り込む改正を行う。

上記の改正は2023年（令和5年）4月1日からの適用開始が予定されています。基本要件規準に係るJIS規格の新規制定や、改正が行われています。JIS T 81001-1、JIS T 81001-5-1もこれらのJIS規格に含まれています。

医事コンピュータ部会主催 海外オンラインセミナー

～アメリカ・フランスのリフィル処方箋制度と運用について各国よりライブ配信～

医事コンピュータ部会では、2020年の新型コロナウイルス感染症のパンデミック以後、諸外国における医療保障制度や医療ICT化の状況を調査すべく実施していた海外視察調査に代わり、Web会議システムを利用した海外オンラインセミナーを企画・主催してまいりました。2020年度のドイツ（テーマ：「コロナ禍におけるドイツのデジタルヘルス」 講師：ドイツ連邦保健省 Mr. Niklas Kramer）、2021年度の中国（テーマ：「中国医療環境の現状と今後の動向について ～医療デジタル化の行方～」 講師：IBG上海 西岡 昌平 様）に続き、本年度は、日本でも2022年4月よりスタートしたリフィル処方箋制度をテーマに、既に制度が普及しているアメリカとフランスの2ヵ国から、現地で活動されている日本人の医療関係者によるライブ配信を実施し、54名の方にご参加いただきました。

アメリカからは、ウォルグリーン薬局の大野真理子様よりアメリカの医療事情やアメリカのリフィル処方箋、4月から導入された日本のリフィル処方箋とアメリカとの比較についてご講演いただきました。またフランスからは、奥田七峰子様よりフランスの医療事情や実際の薬局現場を録画VTRで紹介いただき、定着したリフィル処方箋の実用と問題点についてもご講演いただきました。

アンケート結果についても概ね満足度の高い結果となりました。また、ご講演後には、限られた時間の中で、参加者から当日いただいたご質問にもご回答いただきました。

医事コンピュータ部会では、個社及び個人の活動としては実施が難しい海外の医療情報分野の政策・市場動向の調査を企画・実施してまいりました。これまで実施してきた海外視察調査及び海外オンラインセミナーについては、その有用性や効果を検証し、また、医事コンピュータ部会に参加されている会員各社の興味や利便性なども考慮し、新たな企画を検討してまいりたいと考えております。

—講演概要—

(1) アメリカ

■演題：アメリカのリフィル処方箋制度と運用 ～日本との比較を交えて～

■概要：・アメリカの医療事情全般

- ・民間保険で汎用されているステップ治療
- ・MTM: Medical Therapy Management
- ・アメリカのリフィル処方箋について
- ・リフィルと民間保険
- ・薬剤師の役割
- ・薬局テクニシヤンの役割
- ・4月から導入される日本のリフィル処方箋とアメリカとの比較

(2) フランス

■演題：フランスのリフィル処方箋制度と運用

■概要：・フランスの医療制度について

- ・フランスにおける医療ICT化について
- ・電子カルテ・処方箋・薬歴
- ・パリ市中の薬局の様子（動画）
- ・フランスのリフィル処方箋について
- ・リフィル処方箋の実用と問題点

—スピーカーのご紹介—

(1) アメリカ

大野真理子氏

略歴：1997年3月武庫川女子大学薬学部卒、薬剤師免許取得。同年4月から2002年3月まで武庫川女子大学薬学部薬化学研究室に嘱託助手として勤務。同年8月フロリダ大学薬学部 Pharm.D. コース入学、2005年5月 Pharm.D. 取得、ウォルグリーンに入社。同年8月フロリダ州薬剤師免許取得。2015年フロリダ大学にて MBA 取得。2017年ウォルグリーンズ・スペシャルティー薬局に配属。2019年HIV薬剤師認定取得（AAHIVP American Academy of HIV Medicine）

(2) フランス

奥田七峰子氏

略歴：1993年～2004年 元アメリカン・ホスピタル・オブ・パリ 英・仏・日本語医療通訳
1998年～現在 日本医師会総合政策研究機構 フランス駐在研究員

—参加者から寄せられたコメント—

- ・アメリカの制度から日本のリフィルとの比較まで網羅的に解説いただき大変勉強になった。今後の日本の医療の在り方について、少し想像することができた。
- ・貴重なお話ありがとうございました。日本の医療 DX の行方を占う上で、海外の先進事例は大変参考になるので、また定期的にこうした企画をしていただけると大変嬉しい。
- ・動画などを踏まえてお話しただけはよかった。
- ・日本の薬局や薬剤師の業務と大きく違うことがわかり勉強になりました。

病理・臨床細胞分野の 新たなJAHIS技術文書発行と 2つのJAHIS標準改定のご紹介

医療システム部会
検査システム委員会 病理・臨床細胞部門システム専門委員会 専門委員長
電子カルテ委員会 患者安全ガイド専門委員会 委員
(シスメックスCNA(株))

こんどう めぐみ
近藤 恵美

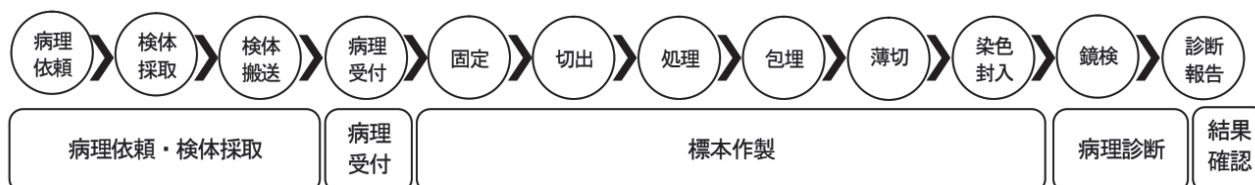


1. はじめに

今年度、病理・臨床細胞分野で1つの新しいJAHIS技術文書の発行と2つのJAHIS標準の改定を行いました。本稿では、新たに発行した「JAHIS医療情報システムの患者安全ガイド（病理編）Ver.1.0」の概要を中心に、改定した「JAHIS病理・臨床細胞データ交換規約Ver.2.1C」と「JAHIS病理・臨床細胞DICOM画像データ規約Ver.4.0」の改定内容を併せてご紹介したいと思います。

早速、と行きたいところですが、皆様、病理学的検査・病理診断についてどのくらいご存知でしょうか？まずは、「病理」についてご紹介します。

病理診断とは、患者の身体から採取された病変の組織や細胞（検体）から顕微鏡用のガラス標本を作製し、作製したガラス標本を顕微鏡で観察して診断することを言います。ガラス標本は、検体採取後、固定、切出（きりだし）、脱脂・脱水・パラフィン浸透（図中では「処理」と記載）、包埋（ほうまい）、薄切（はくせつ）、染色、封入といった手作業による工程を含む多くの工程を経て作製されます。各工程において、容器・溶液を入れ替えたり、容器の数が変わったりもします。また病理医が担当する工程もあれば、臨床検査技師が担当する工程もあります。このように病理業務は、検体を取り違えるリスクが高い業務であり、リスクアセスメントが重要です。



図：病理診断（ガラス標本作製）の流れ

また最近では、ガラス標本を丸ごとデジタル化したWSI（Whole Slide Images）と呼ばれる画像を観察して診断するようになってきました。WSIを生成する装置は、複数のベンダーから発売されており、WSIを観察するには通常各社の専用Viewerを利用しています。

2. 「JAHIS医療情報システムの患者安全ガイド（病理編）Ver.1.0」について

「JAHIS医療情報システムの患者安全ガイド（病理編）Ver.1.0」は、注射編、内服外用編、輸血編に続き、リスクの考慮が必要と考えられる病理業務に特化して検討した結果をまとめたものです。本ガイドは、電子カルテシステム・オーダエントリシステム及び病理部門システムを含めて検討し、システムの機能要件や運用上の留意事項を記載しています。記載内容については、「一般社団法人 日本病理学会」及び「一般社団法人 日本臨床衛生検査技師会」の方々にレビューいただきました。

具体的には、一連の病理業務のどの作業プロセスで患者安全を阻害する要因が発生するかを特定するために、一般的なワークフローを定義し、ワークフローから病理業務プロセスとして1) 病理依頼・検体採取、2) 病理受付、3) 標本作製、4) 病理診断、5) 病理結果確認および患者伝達を抽出しました。そして抽出したプロセス単位に患者安全に影響を及ぼす点について分析を行った上で、1) 運用上のリスク（ヒヤリ・ハット事例を含む）、2) システム上の機能要件、3) 使用する医療従事者に留意していただく事項を提言しています。

3. 「JAHIS病理・臨床細胞データ交換規約Ver.2.1C」について

「JAHIS病理・臨床細胞データ交換規約」は、病院情報システム（HIS）と病理・臨床細胞部門情報システム（AP-LIS）とのデータ交換の仕組みを検討して2011年3月にVer.1.0を発行したもので、必要に応じて見直しを行ってまいりました。今年度改定した「JAHIS病理・臨床細胞データ交換規約Ver.2.1C」は、会誌69号で紹介のあった「JAHISデータ交換規約（共通編）Ver.1.3」及び日本HL7協会が2020年6月に公開したHL7 V2.5日本語訳見直し版の表現を元に見直し、さらに「JAHIS内視鏡データ交換規約Ver.3.2C」に対応して改定したものです。また適合性宣言書のひな形も準備いたしました。

本規約が、病理・臨床細胞分野の規格及び標準の国内外での認知と定着の契機になればと願っています。

4. 「JAHIS病理・臨床細胞DICOM画像データ規約Ver.4.0」について

「病理・臨床細胞DICOM画像データ規約」は、病理・臨床細胞部門に特化したDICOM規格の解説本です。病理・臨床細胞部門の画像データである臓器画像と顕微鏡画像、前述のWSIについて必要な情報オブジェクト定義（IOD）モジュール及び属性マクロのみ抽出して表記し、さらに、標本モジュールの改定に伴い、病理・臨床細胞分野に特有の標本の「識別・管理」についてユースケースを追加して表記しています。

DICOM規格は、1年に数回改定されますが、今回の「病理・臨床細胞DICOM画像データ規約Ver.4.0」は、DICOM規格2022aを基に「病理・臨床細胞DICOM画像データ規約Ver.3.1」を改定いたしました。Ver3.1からの変更点（追加、削除等）は、1) アノテーション関連モジュールの追加、2) 任意選択データ要素（TYPE3）の省略、3) 参照されなくなったモジュールの削除、4) DICOMフォーマット例の見直しの4点です。

今回の規約改定で任意選択データ要素（TYPE3）を省略して必要最低限のデータ要素のみ記載するようにしましたので、より参照しやすくなり、理解が容易になったのではないかと考えます。それにより、JAHIS会員のみならず日本の病理・臨床細胞関連ベンダーのDICOM規格の理解促進と実装の早期推進を期待するところです。

5. おわりに

今年度は1件の新たなJAHIS技術文書の発行と2つのJAHIS標準改定と、病理・臨床細胞分野のJAHIS標準類を充実させることができました。来年度以降は、これらJAHIS標準類の普及に邁進していきたいと考えています。この活動が、業界の発展に少しでも貢献できれば幸いです。

自治体情報システムの標準化における 現状と課題について



保健福祉システム部会
福祉システム委員会
(富士通Japan株)
おおむら かほひさ
大村 周久



保健福祉システム部会
福祉システム委員会
(富士通Japan株)
こうの だいすけ
河野 大輔

1. はじめに（自治体情報システムの標準化とは）

令和4年10月にまとめられた「地方公共団体情報システム標準化基本方針」で示されているとおり、国は自治体の情報システムに関し、「地方公共団体が個別に開発しカスタマイズしてきた結果」として以下の問題意識を有しております。

- (1) 維持管理や制度改正時の改修等において地方公共団体は個別対応を余儀なくされ負担が大きいこと
- (2) 情報システムの差異の調整が負担となり、クラウド利用が円滑に進まないこと
- (3) 住民サービスを向上させる最適な取り組みを迅速に全国へ普及させることが難しいこと

このような課題の打開策として、同方針でシステムの標準化施策として次の4点の施策が提示されています。

- (1) 国は、地方公共団体や基幹業務システムを提供する事業者の意見を丁寧に聴き、標準化対象事務を処理するシステムについての標準化基準の策定及び変更を行う
- (2) 国は、地方公共団体又は標準準拠システム等を提供する事業者にガバメントクラウドを利用させる
- (3) 地方公共団体は、自ら又は事業者がガバメントクラウド上に構築する標準準拠システムを利用する
- (4) 地方公共団体は、独自施策等を講ずるため、当該地方公共団体が保有する標準準拠システムで利用する標準化されたデータを、必要なサービスを提供するためのシステムに利用することができる

このように、従前、各ベンダーがオンプレミスやクラウド上で創意工夫をこらし提供してきた自治体システムは、国の定める標準仕様にもとづいて開発していくことが求められ、またシステムは原則、ガバメントクラウド上でサービス提供されていく形態へと大きく様変わりすることとなります。標準システムへのシフト、ガバメントクラウドへのリフトは2025年度中までの完了が目標とされており、これは1960年代に始まった、自治体システムの歴史において、最も大きな転換点といえます。

2. 自治体情報システムの標準化における状況

当初、標準仕様書の策定対象となっている自治体業務は、総務省主管業務である住民基本台帳、地方税（個人住民税、法人住民税、軽自動車税、固定資産税）、選挙人名簿管理、厚生労働省主管業務である国民健康保険、国民年金、障害者福祉、児童扶養手当、生活保護、介護保険、後期高齢者医療、健康管理、内閣府主管業務である児童手当、子ども・子育て支援、文部科学省主管業務である就学援助・学齢簿の17業務でしたが、現在は3業務（戸籍、戸籍附票、印鑑）が追加され20業務になっています。

前項のとおり、自治体の情報システムは、各自治体が独自に構築・カスタマイズ・発展させてきた歴史により、同一ベンダーのパッケージを利用する自治体においても、結果としてカスタマイズなどにより差異のあるシステムとなっているのが実態です。

標準仕様書の作成は、2020年9月に住民基本台帳の標準仕様書【第1.0版】が発出されたのを皮切りに、第1グループに属する、地方税、介護保険、障害者福祉、就学援助・学齢簿、それ以外の第2グループに属する業務とさみだれ式に策定され、2022年8月に全業務が出揃いました。ただし、記載の粒度や機能要件について自治体からさまざまな声があがっており、今年度内の改版が予定されているほか、政令指定都市からは政令市要件策定の声もあがっており、別途仕様検討の枠組みが立ち上がっています。

また、業務要件のほかに、各業務間の連携やデータについても標準化の検討がなされております。連携の方式（API、ファイル連携）などや、各パッケージで保有するデータの項目・内容などが整理・検討されております。こうした業務機能要件やデータ要件などに、各ベンダーが提供するパッケージが準拠しているか否かの判定は、国から提供されるツールや各種ドキュメントを参照し、各自治体が判断する必要があります。

加えて、国は次の5項目を共通機能として定義し、それぞれについて実装が必要な要件を規定しています。こうした共通機能は本年度中に実施される実装・運用課題の議論を踏まえて標準仕様書が改版される見込みであり、当該の議論の方向性をみながら自治体は共通機能の整備についても検討を進める必要があります。

No	機能	共通機能	定義される内容
1	申請管理	申請者が地方自治体に対し申請手続等を行うマイナポータル等と標準準拠システムの間を連携する機能	<ul style="list-style-type: none"> 標準準拠システムとの連携方法 マイナポータル等の電子申請システムとの連携方法
2	庁内データ連携	標準準拠システムが、他の標準準拠システムにデータを送信又は他の標準準拠システムからデータを受信することを効率的かつ円滑に行う機能	<ul style="list-style-type: none"> REST による公開用API 方式 ファイル連携方式
3	住登外者宛名番号管理	庁内で管理する住登外者（住民記録システムには記録されていないが、住民記録システム以外の標準準拠システムに基づく事務処理に当たって記録しておく必要がある者をいう。以下同じ。）を一意に特定するための住登外者宛名番号を管理する機能	<ul style="list-style-type: none"> 標準準拠システム間の連携に用いる住登外者宛名番号 標準準拠システムにおいて住登外者宛名番号を割り当てるために連携する情報及び連携方法
4	団体内統合宛名	団体内統合宛名番号を付番し、中間サーバと連携する機能	<ul style="list-style-type: none"> 中間サーバとの連携に用いる団体内統合宛名番号 中間サーバと標準準拠システムとの連携方法
5	EUC	職員自身が表計算ソフト等を用いて情報を活用するために基幹業務システムのデータを抽出、分析、加工、出力する機能	<ul style="list-style-type: none"> EUC におけるデータソース

3. ガバメントクラウドの状況

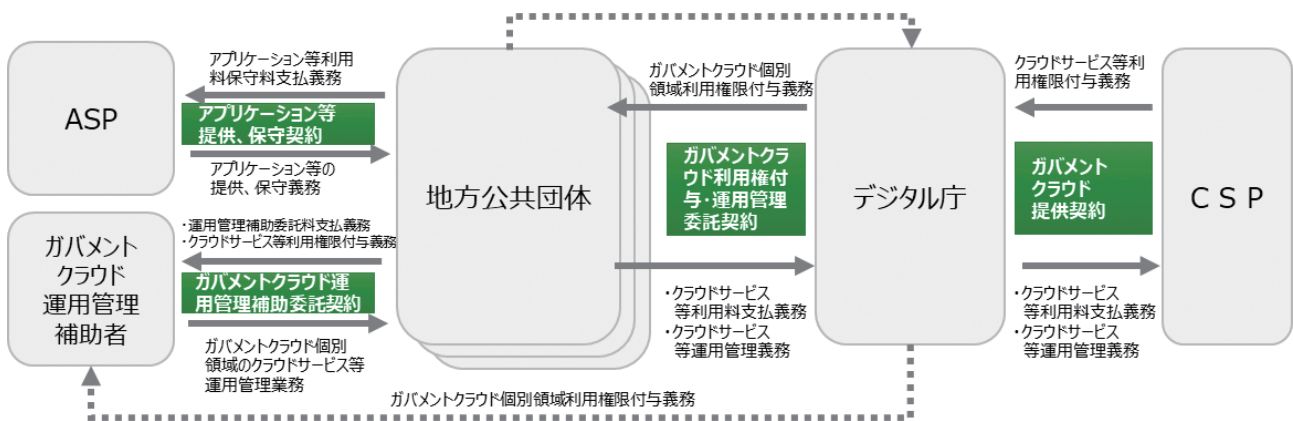
ガバメントクラウドは既述の基本方針において「ガバメントクラウドは、デジタル庁が調達するものであって、地方公共団体が標準準拠システム等を利用できるよう、地方公共団体に対し提供するクラウドサービス及びこれに関連するサービス（以下「クラウドサービス等」という。）である」と規定されており、「地方公共団体が標準準拠システムにおいてガバメントクラウドを利用することは、標準化法第10条により、努力義務とされている」としています。

国は昨年度ガバメントクラウドとして複数の事業者を採択し、当該のCSP上で自治体標準化の実証を行う先行事業に協力する8つの団体を選定しました。

- ・盛岡市 ・佐倉市 ・美里町、川島町 ・須坂市 ・笠置町 ・神戸市
- ・せとうちクラウド（倉敷市、高松市、松山市） ・宇和島市

先行事業では、ガバメントクラウド上に現行システムないし標準準拠した新しいシステムをリフト（シフト）し、性能検証や運用検証を行っています。先行事業は来年度も継続して行われる予定です。

ガバメントクラウドは下図（出典:ガバメントクラウド利用基準）のように、デジタル庁とCSPが契約をし、地方自治体に対して提供する形態となっておりますが、費用負担の在り方やアカウントの払い出し手順など詳細な運用については今後検討がなされる予定です。



4. 自治体情報システムの標準化における課題

既述の通り自治体情報システムの標準化にかかる仕様やガバメントクラウドについては検討が進みつつも、流動要素や課題が残っている状況です。以下に地方公共団体情報システム標準化を進めていくうえでの課題・論点を整理します。

①業務要件、非機能要件の整理

標準化対象20業務の標準仕様書は、今後も改版が見込まれており、2025年度中までにどの改版まで対応必須かが課題です。また業務ごとに粒度が異なっている状態を見直す動きもあり、非機能要件や共通機能、文字、連携要件など今年度いっぱい議論が継続する案件もあります。こうしたパッケージ開発に大きく影響する案件に関して、早期に確定されることが期待されます。また、社会保障系業務は制度改正が多く、標準仕様書の改版のプロセスを制度施行にあわせてタイムリーに回していくことも課題です。

②標準化移行期限

現在、標準化の移行期限は2025年度中と記載されていますが、全国約1,750団体の自治体の基幹系システムの再構築が約2年程度の期間内に一斉に行われるというのは自治体システムの歴史始まって以来の未曾有の事態といえます。現行システムと標準仕様のFIT&GAPや標準準拠システムへの移行に向けたデータクレンジングなどの前倒しできる作業に早期に仕掛かることや、自治体固有の機能・運用を見直し、標準仕様にあわせてBPRを進めていくことが不可欠です。そうした施策をとっても、システム構築にかかわるSEリソースの枯渇が懸念されるのが実態です。

また、自治体側も標準仕様への運用切り替えに伴い条例などの改正が必要になるケースもあり、システム切り替えの予算策定など多くの作業が見込まれていることから、出来るだけ早く標準化に向けた計画策定を行っていくことが求められます

③ガバメントクラウドの利活用

標準化にあたって自治体は国が準備するガバメントクラウドへのシステムリフト・シフトが求められます。先行事業で非機能要件やネットワーク接続の検証などがなされ、デジタル庁、自治体、関連事業者のおおまかな関係性も整理されましたが、実際の費用負担の考え方や詳細については、これから整理されていくこととなります。ガバメントクラウドにリフトする業務と、庁内および他のデータセンターに設置されるシステムとの接続形態など、検討すべき項目は多岐にわたります。自治体側のガバメントクラウドの利活用の検討はこうした詳細が確定するに従い本格化するものと思われます。

5. おわりに

本稿では、自治体情報システム標準化の目的、仕様検討の状況や関連する共通機能、ガバメントクラウドの概況、また標準化を進めていくための課題について雑観しました。

福祉システム委員会は、これまでも厚生労働省、内閣府主管業務の制度改正、法改正に伴うシステム実装へのあり方などを主管府省などと協議をしてきた実績もあります。標準仕様検討にあたっては各WGを通じた意見照会などに協力してきたところであり、今後も業界団体という公正な立場での助言、後方支援が求められることと理解しており、業界の発展に寄与していきます。

事業推進部 日薬展示委員会 日本薬剤師会学術大会併設 IT機器展示の歩み



委員長
(三菱電機ITソリューションズ株)
みやじま つよし
宮島 毅



副委員長
(株)ユニケソフトウェアリサーチ
かめだ ひろふみ
亀田 裕文



副委員長
(株)ユニケソフトウェアリサーチ
やまだ たけし
山田 猛



副委員長
(東日本メディコム株)
にしむら ひさお
西村 寿夫

1. コロナ禍における2年ぶりのハイブリッド開催

日本薬剤師会学術大会は、昨年開催された宮城県宮城市での大会を以って第55回目を数えるに至っています。2021年は福岡での開催でしたが、新型コロナウイルスの感染拡大による緊急事態宣言の影響により、大会1か月前に開催方式が「現地開催」と「WEB開催」のハイブリッド形式を取り止め、WEB配信のみによる「完全WEB開催」へ変更されました。

今回は2年ぶりに「ハイブリッド開催」にて実施されましたが、参加登録数も現地参加、WEB参加含め7,000名を超える規模となり、コロナ禍の中において、多くの来場者が最先端の情報等熱心に討議を交わすセッションやポスターに見入る多くの先生方の様子が目に飛び込んで来ました。

この大会に花を添えるのが併設して開催されるIT機器、薬科機器等の展示会です。JAHISとこの学術大会併設IT機器展示との関わりは、今を去ること約30年前、JAHISの前身である医事コンピュータ協議会の時代にその端を発しています。JAHIS発足後、この事業は医事コンピュータ部会・調剤システム委員会、企画調査部会・普及推進委員会、そして現在の事業推進部・日薬展示委員会へと受け継がれ、現在では事業推進部の事業の柱のひとつとして大きな役割を担っています。

2. 第55回日本薬剤師会学術大会

テーマ：結 ～地域と共に未来へ～

会期：2022年10月9日（日）～10日（月・祝）

会場：仙台国際センター

宮城県での前回開催は2011年に予定されていましたが、震災の為中止となり、1976年、1995年開催に引き続き、27年ぶり3回目となります。IT機器展示は、出展規模20社（スタンダードブース48小間、フリーブース300㎡）となり、コロナ禍前と遜色ない規模での出展となっています。

【参考】過去の出展規模

第51回 石川大会：21社（スタンダードブース30小間 フリーブース400㎡）

第52回 山口大会：21社（スタンダードブース43小間 フリーブース340㎡）

第53回 北海道大会：13社（スタンダードブース29小間 フリーブース80㎡）

第54回 福岡大会：※現地機器展示は中止

出展された企業においては、COVID-19との共存を踏まえた『Withコロナ』を模索しながら、感染症対策等を施したブース展示を行っていました。

2023年第56回大会は、和歌山県和歌山市での開催が予定されており、本年も主催者である一般社団法人和歌山県薬剤師会よりJAHISにIT機器併設展示の取りまとめを依頼されています。これから先も永続的にこの事業を発展させるべく、また、出展いただく企業の方々にも喜んでいただけるように努力を重ねて参りたいと決意を新たにしているところです。

【展示会場】



密をさけるため、小間レイアウトもゆったり

【今後の開催予定】※2023年1月6日時点の情報

第56回大会 会期：2023年9月17日（日）・18日（月・祝）

開催地：和歌山県和歌山市

第57回大会 会期：2024年9月22日（日）・23日（月・祝）

開催地：埼玉県さいたま市

第58回大会 会期：2025年10月12日（日）・13日（月・祝）

開催地：京都府京都市

第59回大会 会期：2026年10月11日（日）・12日（月・祝）

開催地：新潟県新潟市

運営状況報告

2022年12月31日現在の会員数状況は、下表のとおりです。新規会員13社が加わり、総計で383社となりました。

■ 2022年度会員数状況（2022年12月31日現在）

会員種別	A	B	C	D	E	F	合計
2022年3月31日時点	7	4	11	22	123	204	371
期中の新規会員	0	0	0	2	6	5	13
期中の退会	0	0	0	0	0	1	1
期中の会員種別の変更	0	0	0	-2	0	2	0
2022年12月31日現在	7	4	11	22	129	210	383

理事会

第101回～第103回の書面理事会が開催されました。それぞれの審議結果は次のとおりです。

第101回書面理事会（2022年9月14日開催）

議案：第1号議案 入会承認の件 承認
 (株)内田洋行ITソリューションズ F会員 紹介：(株)内田洋行
 (株)アイ・オー・データ機器 E会員 紹介：日本医師会ORCA管理機構(株)

第102回書面理事会（2022年10月14日開催）

議案：第1号議案 入会承認の件 承認
 (株)バッファロー F会員 紹介：(株)ノーザ
 (株)Digital Life E会員 紹介：エヌ・デーソフトウェア(株)

第103回書面理事会（2022年11月15日開催）

議案：第1号議案 入会承認の件 承認
 (株)法研システムズ F会員 紹介：都築電気(株)
 (株)ezCaretech Japan E会員 紹介：PSP(株)

運営会議状況報告

2022年度 第3回運営会議議事録

<日時>：2022年6月21日（火）15:00～17:35

<場所>：WEB会議

1. 役職連動の役割分担の変更について

GHS管理委員会委員長は負荷分散の観点から担当役職の変更を承認した。森本健一氏がGHS管理委員会 委員長に、下山赤城氏がGHS管理委員会 委員となる。

GHS運営会議直下への活動見直し検討会の設置に伴う委員の新規派遣について、戦略企画部長 並川寛和氏、医療システム部会担当 運営幹事 山内俊幸氏、事業企画推進室 副室長 岩井俊介氏の派遣を承認した。

2. 標準化推進部会副会長交代について

土居篤博氏から光城元博氏に交代することを承認した。

3. HELICS協議会理事の役職連動の変更について

2名の理事のうち1名の役職連動を国内標準化委員会委員長から同委員会副委員長に変更することを承認した。

4. 対外活動申請

- ・ ACTION1対応WGメンバー変更について、歯科システム委員会 副委員長 小森一秀氏、電子カルテ委員会 委員 豊田竜弥氏をACTION1対応WG メンバーとして選任することについて承認した。
- ・ 令和4年度「全国医療・薬局機能情報提供制度の全国統一システム構築事業」検討委員会委員派遣について、戦略企画部 運営幹事 中光敬氏を活動者として派遣することを承認した。
- ・ 厚労省「労災レセプトのオンライン化に向けた普及促進事業」について、JAHIS運営体制変更による戦略企画部長交代に伴い、本委員会の活動者を前任の西山喜重氏より並川寛和氏に交代することを承認した。
- ・ MEJ 四次元医療改革研究会評議会 評議員派遣について、JAHIS運営体制変更に伴い、評議員の派遣について前会長の瀧口登志夫氏より新会長の森田隆之氏に交代することを承認した。なお、リアルタイムの会議が開催される場合は、随行者、代行者を別途調整することとなった。
- ・ 厚労省医薬局 電子処方箋推進のためのシステム面の課題等に係る作業班班員派遣について、戦略企画部 事業企画推進室 副室長 新垣淑仁氏を作業班班員として派遣することを承認した。
- ・ 医療関係団体による「オンライン資格確認推進協議会」へのオブザーバ派遣について、医事コンピュータ部会担当運営幹事 森本健一氏、事務局 医事コンピュータ部長 前田利勝氏を本協議会のオブザーバに派遣することを承認した。
- ・ 日本放射線腫瘍学会第35回学術大会への演者派遣について、検査システム委員会 放射線治療WGリーダ 今井高文氏を本大会一般演題の演者に派遣することを承認した。
- ・ 厚生労働省／リアルワールドデータ研究利活用基盤整備にかかる検討会への委員派遣について、医療システム部会 電子カルテ委員会 委員 岡田靖士氏を本検討会への委員派遣することを承認した。
- ・ 国保中央会「障害者総合支援法等審査事務研究会及びWG」への委員委嘱について、福祉システム委員会 委員長 金本昭彦氏に本研究会及びWGへの委員委嘱することを承認した。

2022年度 第4回運営会議議事録

<日時>：2022年7月19日（火）15:00～16:55

<場所>：WEB会議

1. 電子投票結果

医療情報システムの安全管理に関するガイドライン改定作業班への委員派遣について7/13 電子投票に承認された、医療システム部会 電子カルテ委員会 副委員長 新垣淑仁氏の委員派遣について報告した。

2. 医療機能評価機構賛助会員について

同機構の賛助会員へ入会することを承認した。

3. 診療報酬改定DXWG開設について

WGを開設することを承認した。また、構成メンバーとして戦略企画部長 並川寛和氏、運営幹事 森本健一氏、運営幹事 福間衡治氏、事業企画推進室 室長 小林俊夫氏、副室長 新垣淑仁氏を医事コンピュータ部会の適任者とする事、並びに今後のスコープにあわせて、医療システム部会等含め、JAHIS横断的にメンバー追加していくことを承認した。

4. 対外活動申請

- ・MEJ四次元医療改革研究会「電子カルテ改革・社会実装」分科会への派遣メンバー変更について、JAHIS運営体制変更による運営会議議長交代に伴い、本分科会の活動者を前任の色紙義朗氏より大原通宏氏に交代することを承認した。
- ・ISO/TC215札幌会議実行委員会委員推薦について、事務局 標準化推進部長 柘植章彦氏を委員として推薦することを承認した。
- ・「データヘルス改革を見据えた次世代型お薬手帳活用推進事業調査検討会」の構成員への参画について、医事コンピュータ部会調剤システム委員会 委員長 宮島毅氏を本検討会の構成員に派遣することを承認した。
- ・保健医療福祉リアルワールドデータ「ヘルス&ケアデータプロセスモデル」国際規格開発委員会への委員派遣について、医療システム部会 相互運用性委員会 委員長 木村雅彦氏を委員として派遣することを承認した。
- ・第25回日本医療マネージメント学会学術総会シンポジウムへの演者派遣について、医療システム部会 電子カルテ委員会 委員長 岡田靖士氏、副委員長 新垣淑仁氏、副委員長 根来亮介氏、副委員長 太田聡司氏を演者として派遣することを承認した。
- ・国保中央会「広域連合標準システム研究会」のオブザーバ参加について、保健福祉システム部会 福祉システム委員会 委員 岩田孝一氏、副委員長 川崎英樹氏、委員 山田幹太氏を本研究会のオブザーバとして派遣することを承認した。

2022年度 第5回運営会議議事録

<日時>：2022年8月23日（火）15:00～17:29

<場所>：WEB会議

1. 相談事項

市場調査TF：データ循環型社会具体化資料作成委託について、調査委託の企画案の報告、相談がされ、特に異論は無く検討を継続することを確認した。

2. 総務会事務局担当者後任の引継について

谷口総務部長の後任として寺崎貴宏氏を選定し、事務手続きや引継ぎを進めることについて、引継ぎ期間や雇用形態（有期労働契約、賃金）と併せて承認した。

3. 『調剤と情報』の2022年11月度特集企画への寄稿について

医療システム部会 セキュリティ委員会 委員長 茗原秀幸氏が執筆対応することを承認した。

4. 対外活動申請

- ・「障害福祉サービスデータベースの構築に関する工程管理等支援」検討委員会への委員派遣について、医事コンピュータ部会 介護システム委員会 委員長 畠山仁氏を本検討会の委員に派遣することを承認した。
- ・「介護情報利活用ワーキンググループ」へのオブザーバ派遣について、医事コンピュータ部会 介護システム委員会 委員長 畠山仁氏を本ワーキンググループのオブザーバに派遣することを承認した。
- ・「オンライン治験におけるデータの信頼性の確保等に関するガイダンスに係る検討委員会」への委員派遣について、医療システム部会 電子カルテ委員会 委員長 岡田靖士氏を本委員会に委員として派遣することを承認した。
- ・「日本医療情報学会看護部会の委員就任について、医療システム部会 部門システム委員会 病棟業務支援システム専門委員会 委員長 木戸須美子氏を本部会の委員として派遣することを承認した。
- ・（一社）医療データ活用基盤整備機構「TC215/WG11「Personalized Digital Health」国内作業部会委員の派遣について、保健福祉システム部会 健康支援システム委員会 委員長 鹿妻洋之氏を本作業部会の委員に派遣することを承認した。また、保健福祉システム部会 健康支援システム委員会 特別委員 西原栄太郎氏の活動については、特別委員委嘱契約書に基づき、双方合意したとの報告があった。

2022年度 第6回運営会議議事録

<日時>：2022年9月20日（火）15:00～17:43

<場所>：WEB会議

1. NeXEHRs コンソーシアムの一般社団法人化に伴う賛助会員の継続について

賛助会員を継続することを承認した。

2. 市場調査TF：データ循環型社会具体化資料作成委託について

資料作成委託について承認した。

3. 2023 新春講演会・賀詞交換会開催形態について

新春講演会をオンライン形式で開催することとし、賀詞交換会については中止とすることを承認した。

4. 対外活動申請

- ・医療情報学連合大会共催三菱電機展示ルームへの講師派遣について、戦略企画部 事業企画推進室 室長 小林俊夫氏を講師派遣することを承認した。
- ・福岡県薬剤師会医療安全セミナー講師派遣について、標準化推進部会 安全性・品質企画委員会 委員長 岡田真一氏、医事コンピュータ部会 調剤システム委員会 委員長 宮島毅氏を本セミナーに講師派遣することを承認した。
- ・HELICS 審査委員会（netPDI）委員派遣について、標準化推進部会 国内標準化委員会 委員長 田中利夫氏を本委員会に委員派遣することを承認した。

- ・第42回医療情報学連合大会共同企画の共同座長の派遣について、医療システム部会 相互運用性委員会 委員長 木村雅彦氏を本企画の共同座長に派遣することを承認した。
- ・MEDIS-DC／看護実践用語標準マスタータスクフォースへの委員派遣について、医療システム部会 部門システム委員会 病棟業務支援システム専門委員会 専門委員長 木戸須美子氏、同専門委員会看護情報WG リーダ 汐崎弘子氏を委員派遣することを承認した。
- ・厚生労働省／透析情報標準規格技術仕様ワーキンググループへの委員派遣について、医療システム部会 電子カルテ委員会 副委員長 太田聡司氏、部門システム委員会 委員 根未秀明氏を委員派遣することを承認した。

2022年度 第7回運営会議議事録

<日時>：2022年10月18日（火）15:00～17:15

<場所>：WEB会議

1. 電子投票結果

- ・厚生労働省／医療等情報利活用WGへの意見陳述人派遣について、9/2 電子投票にて承認された、医療システム部会 セキュリティ委員会 委員長 茗原秀幸氏の意見陳述人派遣について報告した。
- ・「令和4年度診療報酬改定の結果検証に係る特別調査」調査検討委員会委員派遣について、9/29 電子投票にて承認された、医事コンピュータ部会 電子レセプト委員会 委員長 西口妙子氏の委員派遣について報告した。
- ・地方公共団体情報システム共通機能等技術要件検討会オブザーバ派遣について、10/5 電子投票にて承認された、保健福祉システム部会 福祉システム委員会 委員長 金本昭彦氏のオブザーバ派遣について報告した。
- ・厚生労働省／オン資基盤を活用した電カル情報交換サービス検討会議への構成員派遣について、10/11 電子投票にて承認された、医療システム部会 電子カルテ委員会 委員長 岡田靖士氏の構成員派遣について報告した。

2. GHS活動終了について

GHS理事会までにGHS設立に関わった関係者へ説明し、理解を得ることを条件として、GHSの活動終了決定について賛成することを承認した。

【会議後追記事項】10/19に関係者への説明が完了し、ご理解をいただけたため、「GHSの活動終了に対するGHSの決定に賛成する」旨のJAHISとしての機関決定条件が成立したことが確認され、運営会議メーリングリストにて報告された。

3. 懇親会開催について

懇親会実施ルール案が説明され承認した。また、仮払金対応や緊急時の連絡等を含めCOVID-19禍における事務局対応と連携した運営を鑑みて余裕を持って開催する事、開催者が混乱しないように運用のポイントやナレッジを共有する事を確認した。さらに、会議運営の緩和策も今後検討を進めていくこととした。

4. 対外活動申請

- ・NeXEHRsコンソーシアム「基本概念実現化部会（POC部会）」の活動者変更について、JAHIS 体制変更に伴い、前 戦略企画部長 西山喜重氏から現 戦略企画部長 並川寛和氏に活動者を変更することを承認した。

- ・電子処方箋医療情報学連合大会産官学共同企画への演者派遣について、戦略企画部 事業企画推進室 副室長 新垣淑仁氏を演者派遣することを承認した。
- ・第42回医療情報学連合大会HELICSチュートリアル演者派遣について、医療システム部会 相互運用性委員会 委員 窪田成重氏を本チュートリアルに演者派遣することを承認した。
- ・がんゲノム医療の発展に資する情報連携基盤の構築への対応について、医療システム部会 相互運用性委員会 委員長 木村雅彦氏および医療システム部会 電子カルテ委員会 委員長 岡田靖士氏を本件に派遣することを承認した。

2022年度 第8回運営会議議事録

<日時>：2022年11月15日（火）15:00～17:12

<場所>：WEB会議

1. 国際標準化団体への派遣者追加・変更について
国際標準化団体への派遣者として、医療システム部会 相互運用性委員会 委員 塩川康成氏の派遣追加および、標準化推進部会 国際標準化委員会 委員 岩間哲也氏から同委員 両面晴好氏に交代することを承認した。
2. 会員意識調査2023の業務委託することを承認した。また併せて、調査の回答率を高める対応策を検討、推進することとなった。
3. 対外活動申請
 - ・「訪問看護療養費レセプトの電子化及びレセプトオンライン請求の促進に関する調査等一式」検討委員会へのオブザーバ派遣について、医事コンピュータ部会 介護システム委員会 委員長 畠山仁氏および同委員会 副委員長 高橋和彦氏、同副委員長 石川竜太氏、同副委員長 今村将訓氏、電子レセプト委員会 委員長 西口妙子氏の5名を本件にオブザーバ派遣することを承認した。
 - ・「介護ソフトの機能分類と導入ポイントに関する調査研究」検討委員会への委員派遣について、医事コンピュータ部会 介護システム委員会 委員長 畠山仁氏を本件に委員派遣することを承認した。
 - ・「医療機関等における自治体検診等の情報の閲覧・活用に向けたシステムの在り方に関する有識者会議」への委員派遣について、保健福祉システム部会 福祉システム委員会 委員長 金本昭彦氏を本件に委員派遣することを承認した。

2022年度 第9回運営会議議事録

<日時>：2022年12月20日（火）15:00～17:10

<場所>：WEB会議

1. 電子投票結果
 - ・「第4期特定健診・特定保健指導の見直しに関する検討会」システム改修に関するワーキング・グループおよび作業班への委員派遣について
電子投票での審議において承認されたことが報告された。
 - ・「医療情報を取り扱う情報システム・サービスの提供事業者における安全管理ガイドライン」改定検討会への委員派遣について
電子投票での審議において承認されたことが報告された。

2. 標準化推進部会特別委員委嘱について

標準化推進部会 国際標準化委員会および安全性・品質企画委員会に松元恒一郎氏を特別委員委嘱することについて承認した。

3. 会議室のプロジェクタ交換について

4会議室全てのプロジェクタをFull-HDで4500lmの高輝度な機器と交換することについて承認した。また提案の優れたA社を選定することや、工賃、諸経費等を含む交換費用も併せて承認した。

4. 対外活動申請

- ・インナービジョン社「ITvision」No.47（2月末発行）における寄稿について、運営会議 議長 大原通宏氏が本件の執筆対応することを承認した。
- ・「日本コミュニティファーマシー協会 第9期CP研究会第1回目」講師派遣について、医事コンピュータ部会 調剤システム委員会 調剤標準化分科会 サブリーダー 野本禎氏を本件に講師派遣することについて承認した。
- ・健診等情報利活用ワーキンググループ民間利活用作業班の委員委嘱について、保健福祉システム部会 健康支援システム委員会 委員長 鹿妻洋之氏を本件の委員委嘱することについて承認した。

総務会

総務会の主な審議事項の要旨をご紹介します。協議事項、報告事項は割愛いたします。

2022年7月

【日時】2022年7月6日（水）15：00～17：00

【場所】Webexにて開催

【審議事項】

1. 女性活躍TFへの非総務会委員参加について

- ・女性活躍TFの企画メンバーに(株)エヌデーの綿野氏が追加参加される件につき審議した
- ・谷口総務部長から資料に基づく説明があり、審議した結果、同氏のご参加を承認した。

2. (株)NTTデータ中国のJAHIS執務環境利用申請について

- ・JAHISの次期ITシステム開発の委託先であるNTTデータ中国の職員によるJAHIS執務環境理法申請につき審議した。
- ・谷口総務部長から資料に基づく説明があり、審議した結果、申請どおりの利用を承認した。

2022年8月

【日時】2022年8月4日（木）15：00～17：00

【場所】Webexにて開催

【審議事項】

1. 電子印影の取扱いに関する規程について

- ・JAHISの請求書及び委嘱状の押印を電子印影とする件（6月の運営会議にて報告済）につき、真野事務局長からこれを規程化する旨の提案があり、提出された規程案を審議した。

- ・審議において、(a) 請求書及び委任状は枚数が多く「業務効率化の観点から」電子印影を利用したい、(b) 昨年度実績で押印を要した書類は1,600～1,700程度あり、その内請求書と委任状が1,300程度なので効率化に有効、(c) JAHISでも今後は書類を削減する方向で、電子請求書も検討しているが、現時点ではサービス提供者が多岐にわたり対応しきれない、等のコメントがあった。
- ・規程化のプロセスに則り、次回の運営会議（8月23日開催）にて報告することを前提に本規程を承認することとなった。

2022年9月

【日時】 2022年9月13日（火） 15：00～17：00

【場所】 Webexにて開催

【審議事項】

- (1) 審議事項なし

2022年10月

【日時】 2022年10月12日（水） 15：00～16：55

【場所】 Webexにて開催

【審議事項】

- (1) 審議事項なし

2022年11月

【日時】 2022年11月9日（水） 15：00～16：55

【場所】 Webexにて開催

【審議事項】

- (1) 事業計画書・事業報告書、予算書について

- ・谷口総務部長より、事務局にて事業計画書・報告書の素案を作成し、その内容の説明を行った。今後事務局にて作成する事業計画書を電子投票にて最終的に審議していただきたい旨の要請があった。
- ・谷口部長より、予算計画の素案の提示と昨年からの変更点を中心に内容説明があった。
- ・真野事務局長から、来年度の事務局予算の変更部分を中心に説明があった。
- ・谷口部長より、事業報告書について概要説明があった。
「事業計画書」と「予算計画」については、電子投票による審議・決裁をお願いしたいとの要請があり、了承された。

- (2) 理事会資料・議長報告資料について

- ・谷口部長より、2月開催の定例理事会の資料素案の提示と内容説明があった。
- ・谷口部長より、議長報告資料（総務会の活動状況）の提示と説明があった。
- ・議長報告の活動期間については、福間運営幹事からの依頼内容を確認してから、各TFリーダーに報告内容のチェックをしていただくことになった。

- ・過去3回オンラインで行った新春講演会&賀詞交換会においては、新規会員の紹介ができずにいたので、今回会員紹介をすることにした。
- ・2023年度の事業方針については、以下の6点にまとめた。
 - ⇒HPの改良や会誌コンテンツの拡充による情報発信の促進
 - ⇒既会員の満足度向上および新規会員獲得施策の推進
 - ⇒女性会員の参画機会向上を含めたJAHIS活動の活性化策の検討
 - ⇒IT環境整備及び会員サイトの刷新を通じた会員の利便性向上
 - ⇒定時社員総会、講演会・賀詞交換会等の開催による会員交流促進
 - ⇒地方会員のJAHIS活動への参加促進策の検討
- ・小林委員より、昨年にあった以下の内容は継続して残したいとの意見があった。
 - ⇒活動の活性化に資する表彰制度の拡充検討を継続（JAHIS大賞（仮称）等）
- ・下山会長より、「JAHISステータス向上の施策検討」については、形骸化しているので削除のままで良いとの意見があった。
- ・谷口部長より、以上の理事会資料及び新春講演会の大原議長報告資料については、再度事務局にてまとめ直したものを電子投票にて審議していただきたいとの要請があった。

(3) 事務所賃貸借契約更新について

- ・真野事務局長より、来年7月に契約更改される事務所賃貸借契約について、価格交渉の経緯と最終妥結価格について、報告と決裁の要請があった。
- ・下山会長より採決がとられ、出席者全員の賛成で審議事項が承認され、運営会議に上申する旨の発言があった。

2022年12月

【日時】2022年12月14日（水）15：00～16：40

【場所】Webexにて開催

【審議事項】

(1) 規約5001号の変更、内規の改定について

- ・真野事務局長より、会計処理細則（JAHIS規程5001号）の改定（第3条）の審議要請があった。第3条では、預貯金の出納にはカード類の使用を禁じているが、銀行窓口が予約制になったことで、現金引き出しの時間が大幅に増えていること、出張や懇親会が復活し始めたことにより、現金を引き出す機会が増えたことで、キャッシュカードによる現金引出しを可能にしたい旨の説明があった。
- ・JAHIS規程5001号の会計処理細則3条に以下の文言を追加する。
 - ⇒「また、仮払い、および、手許現金補充のためのキャッシュカードの利用は認めるものとする。キャッシュカードの運用・管理は会計責任者、出納責任者、および、その監督のもとに特定の事務局職員のみが行えるものとする。」
- ・下山総務会長から、変更箇所は第3条のみとし、以下の内容にしての決裁発議がなされ、承認された。第3条 預貯金の出納に以下に定めるカード類以外を使用してはならない。
 - (1) クレジットカードを使用したオンライン決済のためのコーポレートカードの使用は認めるものとする。コーポレートカード類の運用・管理は会計責任者のみが行えるものとする。

- (2) 仮払い、および、手許現金補充のためのキャッシュカードの利用は認めるものとする。
 キャッシュカードの運用・管理は会計責任者、出納責任者および、その監督のもとに特定の事務局職員のみが行えるものとする。
- ・ 真野事務局長から、事務局内規（会計関係）についても、見直し・変更が必要となったので、以下の審議要請があった。
 ⇒コーポレートカードの決裁対象に、「海外の標準化団体の会費」を追加する
 今年IHEの海外の会費費用について、カード支払いしかなかった。公認会計士の了解は得られているとの説明が補足された。
 - ・ 岸本部長から、事務局内規の存在やその内容を知らない者が多いので、それを明確にしておく必要があるとの意見があった。
 - ・ 下山会長から、当該内規の変更に関する承認発議がなされ承認された。

委員派遣ならびに協賛・後援（2022年7月～2022年12月承認）

【委員派遣】

1. 厚生労働省
 「医療情報システムの安全管理に関するガイドライン改定作業班」 委員
 (NTTデータ経営研究所受託事業) (2022年7月19日～2023年3月31日)
 電子カルテ委員会 副委員長 新垣 淑仁
2. Medical Excellence JAPAN (MEJ) 四次元医療改革研究会
 「電子カルテ改革・社会実装」分科会派遣メンバーの変更 (2022年7月19日～2024年3月31日)
 運営会議議長 大原 通宏
3. (一財) 医療情報システム開発センター
 「ISO/TC215札幌会議実行委員会」 委員 (2022年7月19日～2023年3月31日)
 事務局 標準化推進部長 柘植 章彦
4. 厚生労働省
 「データヘルス改革を見据えた次世代型お薬手帳活用推進事業調査検討会」 構成員
 (PwCコンサルティング受託事業) (2022年8月～期限を定めず)
 調剤システム委員会 委員長 宮島 毅
5. 経済産業省
 保健医療福祉リアルワールドデータ「ヘルス&ケアデータプロセスモデル」国際規格開発委員会
 構成員
 (三菱総合研究所受託事業) (2022年7月19日～2023年2月28日)
 相互運用性委員会 委員長 木村 雅彦

6. 第25回日本医療マネージメント学会学術総会シンポジウム演者（2023年6月23,24日）

電子カルテ委員会	委員長	岡田 靖士
	副委員長	新垣 淑仁
	副委員長	根来 亮介
	副委員長	太田 聡司

7. 国民健康保険中央会

「広域連合標準システム研究会」オブザーバー（2022年7月19日～2023年6月30日）

福祉システム委員会	副委員長	川崎 英樹
福祉システム委員会	委員	岩田 孝一
	委員	山田 幹太

8. 厚生労働省

「障害福祉サービスデータベースの構築に関する工程管理等支援」検討委員会委員
（三菱総合研究所受託事業）（2022年8月～2023年3月31日）

介護システム委員会	委員長	畠山 仁
-----------	-----	------

9. 厚生労働省

「介護情報利活用ワーキンググループ」オブザーバー（2022年8月23日～2023年3月31日）

介護システム委員会	委員長	畠山 仁
-----------	-----	------

10. 厚生労働省

「オンライン診療におけるデータの信頼性の確保等に関するガイダンスに係る検討委員会」構成員
（三菱総合研究所受託事業）（2022年8月23日～2022年10月）

電子カルテ委員会	委員長	岡田 靖士
----------	-----	-------

11. 日本医療情報学会看護部会の委員（2022年8月23日～2025年6月）

病棟業務支援システム専門委員会		
専門委員長		木戸 須美子

12. （一社）医療データ活用基盤整備機構（2022年8月23日～2023年3月31日）

「TC215 / WG11 Personalized Digital Health」国内作業部会委員

健康支援システム委員会	委員長	鹿妻 洋之
-------------	-----	-------

「指定難病患者データベース及び小児慢性特定疾病児童等データベース更改に係る医療機関の院内システム改修に向けた協力」（2021年10月19日～2022年3月31日）

電子カルテ委員会	委員長	井上 貴宏
	副委員長	新垣 淑仁
	副委員長	根来 亮介
	副委員長	太田 聡司
医療システム部会	運営幹事	山内 俊幸

13. 三菱電機株式会社
医療情報学連合大会三菱電機展示ルーム 講師 (2022年11月19日)
戦略企画部 事業推進室長 小林 俊夫
14. 公益社団法人 福岡県薬剤師会
第12回医療安全セミナー 講師 (2022年10月30日)
安全性・品質企画委員会 委員長 岡田 真一
調剤システム委員会 委員長 宮島 毅
15. (一社) HELICS協議会
「トークンを用いたクラウド型施設間連携 (netPDI)」審査委員会 委員 (2022年9月29日)
国内標準化委員会 委員長 田中 利夫
16. (一財) 医療情報システム開発センター
「看護実践用語標準マスタートスクフォース」委員 (2022年9月20日～2023年3月31日)
病棟業務支援システム専門委員会
専門委員長 木戸 須美子
同委員会 看護情報WGリーダー 汐崎 弘子
17. 厚生労働省
「透析情報標準規格技術仕様ワーキンググループ」委員 (2022年9月20日～2023年3月31日)
電子カルテ委員会 副委員長 太田 聡司
部門システム委員会 委員 根末 秀明
18. 厚生労働省
「健康・医療・介護情報利活用検討会 医療等情報利活用ワーキンググループ」意見陳述人
(2022年9月5日)
セキュリティ委員会 委員長 茗原 秀幸
19. 厚生労働省
「令和4年度診療報酬改定の結果検証に係る特別調査」調査検討委員会 委員
(2022年9月30日～2023年3月31日)
電子レセプト委員会 委員長 西口 妙子
20. デジタル庁
「地方公共団体情報システム共通機能等技術要件検討会」オブザーバー
(2022年10月18日～2023年3月31日)
福祉システム委員会 委員長 金本 昭彦

21. 厚生労働省

「オンライン資格確認の基盤を活用した電子カルテ情報交換サービス（仮称）検討会議」 委員
（有限責任監査法人トーマツ受託事業）（2022年10月18日～2023年3月31日）

電子カルテ委員会 委員長 岡田 靖士

22. NeXEHRsコンソーシアム

「基本概念実現化部会（POC部会）」の活動者変更（2022年6月21日～）

変更後 戦略企画部長 並川 寛和

23. 第42回日本医療情報学会連合大会

「電子処方箋に係る産官学セッション企画」演者（2022年11月20日）

事業企画推進室 副室長 新垣 淑仁

24. 第42回日本医療情報学会連合大会

「HELICSチュートリアル」演者（2022年11月17日）

相互運用性委員会 委員 窪田 成重

25. 国立研究開発法人 国立がん研究センター

「がんゲノム医療の発展に資する情報連携基盤の構築に向けた標準規格の開発研究」班会議
（2023年2月21日）

相互運用性委員会 委員長 木村 雅彦

電子カルテ委員会 委員長 岡田 靖士

26. 厚生労働省

「訪問看護療養費レセプトの電子化及びレセプトオンライン請求の促進に関する調査等一式」
検討委員会 オブザーバー（日時調整中～2023年3月31日）

介護システム委員会 委員長 畠山 仁

副委員長 高橋 和彦

副委員長 石川 竜太

副委員長 今村 将訓

電子レセプト委員会 委員長 西口 妙子

27. 厚生労働省

「介護ソフトの機能分類と導入ポイントに関する調査研究」検討委員会 委員
（三菱総合研究所受託事業）（日時調整中～2023年3月31日）

介護システム委員会 委員長 畠山 仁

28. 厚生労働省

「医療機関等における自治体検診等の情報の閲覧・活用に向けたシステムの在り方に関する有識者
会議」委員（有限責任監査法人トーマツ受託事業）（2021年11月15日～2023年3月31日）

福祉システム委員会 委員長 金本 昭彦

29. 厚生労働省

「第4期特定健診・特定保健指導の見直しに関する検討会」システム改修に関するワーキング・グループおよび作業班 委員（2022年12月20日～2024年3月31日）

WG：健康支援システム委員会 委員長 鹿妻 洋之

WG作業班：委員長 鹿妻 洋之

副委員長 井上 裕之

30. 総務省

「医療情報を取り扱う情報システム・サービスの提供事業者における安全管理ガイドライン」改定検討会 委員（NTTデータ経営研究所受託事業）（2022年12月20日～2023年3月31日）

セキュリティ委員会 委員長 茗原 秀幸

31. 日本コミュニティファーマシー協会

「第9回CP研究会第1回目」講師（2023年4月15日）

調剤標準化分科会 サブリーダー 野本 禎

32. 総務省

「健診等情報利活用ワーキンググループ民間利活用作業班」委員
（NTTデータ経営研究所受託事業）（2022年12月20日～2023年3月31日）

健康支援システム委員会 委員長 鹿妻 洋之

【協賛・後援】

- ・日本医療機能評価機構 賛助会員
- ・ISO / TC215 札幌会議 協賛

【寄稿】

- ・株式会社じほう 「調剤と情報」2022年11月度特集企画
セキュリティ委員会 委員長 茗原 秀幸
- ・株式会社インナービジョン 「ITvision No.47」JAHISが考える医療DX
運営会議 議長 大原 通宏

会員連絡窓口、全役職者及び全員宛てメール一覧

2022年6月30日～2022年12月27日

通知番号	宛先対象	タイトル	発行日
338	全員	【再送】「(女性会員限定) 第3回JAHISオンラインセミナー・交流会」開催ご案内	2022年12月27日
337	全員	【緊急重要連絡・依頼】サイバーセキュリティに対する周知徹底依頼の件	2022年12月26日
336	全員	「(女性会員限定) 第3回JAHISオンラインセミナー・交流会」開催ご案内	2022年12月23日
334	会員連絡窓口、 全役職者	(お知らせ)【NISCからの情報提供T703】の送付	2022年12月20日
332	会員連絡窓口、 全役職者	I P A S C 3事務局からのお知らせ:「サプライチェーン全体のサイバーセキュリティ向上のための取引先とのパートナーシップの構築に向けて」の公表について	2022年12月19日
331	会員連絡窓口、 全役職者	(お知らせ)【情報提供】Fortios に関する脆弱性情報への対応について(注意喚起)	2022年12月17日
330	会員連絡窓口、 全役職者	(お知らせ)【周知依頼】マイナンバーカードの取得、健康保険証利用申込及び公金受取口座登録の促進について(依頼)	2022年12月16日
329	会員連絡窓口、 全役職者	(お知らせ)【NISCからの情報提供T700-2】の送付	2022年12月14日
328	会員連絡窓口、 全役職者	(お知らせ)【NISCからの情報提供T700】の送付	2022年12月13日
327	全員	2023年JAHISオンライン新春講演会のご案内	2022年12月13日
326	会員連絡窓口、 全役職者	(お知らせ)【周知依頼】マイナンバーカードの取得、健康保険証利用申込及び公金受取口座登録の促進について(依頼)	2022年12月12日
325	会員連絡窓口、 全役職者	(お知らせ)年末年始期間中に帰省される方への検査受検の呼びかけについて周知のお願い	2022年12月8日
324	会員連絡窓口、 全役職者	(お知らせ)【周知依頼】大阪・関西万博「運営参加」の募集について	2022年12月8日
323	会員連絡窓口、 全役職者	【お知らせ(周知依頼)】【MEJ四次元】12/8日経SDGs医療DXシンポジウムのご案内	2022年12月5日
322	全員	(★最終案内)「JAHIS 地域医療連携セミナー」のご案内	2022年12月5日
321	全員	【申込みはお早めに】「(女性会員限定) 第2回JAHISオンラインセミナー・交流会」開催ご案内	2022年12月1日
320	会員連絡窓口、 全役職者	(お知らせ)【周知依頼】新型コロナウイルス感染症対策の基本的対処方針の変更に関する周知のお願い	2022年11月30日
319	会員連絡窓口、 全役職者	(お知らせ)【NISCからの情報提供T692】の送付	2022年11月25日
318	全員	(再々)「JAHIS 地域医療連携セミナー」のご案内	2022年11月25日
317	全員	【申込みはお早めに】「(女性会員限定) 第2回JAHISオンラインセミナー・交流会」開催ご案内	2022年11月24日
316	会員連絡窓口、 全役職者	(お知らせ)直近の感染状況等を踏まえた国民の皆様への呼びかけについての周知のお願い	2022年11月22日
315	全員	(再)「JAHIS 地域医療連携セミナー」のご案内	2022年11月18日
314	会員連絡窓口、 全役職者	(お知らせ)【周知依頼】今秋以降の感染拡大で保健医療への負荷が高まった場合に想定される対応についての分科会とりまとめについて	2022年11月17日
313	全員	【申込みはお早めに】「(女性会員限定) 第2回JAHISオンラインセミナー・交流会」開催ご案内	2022年11月17日
312	会員連絡窓口、 全役職者	(お知らせ)【周知依頼】冬季の省エネルギーの取組について	2022年11月17日
311	会員連絡窓口、 全役職者	(お知らせ)【周知依頼】オミクロン株対応ワクチンの接種促進のための更なる取組推進について(依頼)	2022年11月16日
310	全員	(最終案内)「JAHISリスクマネジメントセミナー2022」のご案内	2022年11月15日
309	会員連絡窓口、 全役職者	(お知らせ)【ご依頼】「責任あるサプライチェーン等における人権尊重のためのガイドライン」の周知について	2022年11月15日
308	会員連絡窓口、 全役職者	(お知らせ)【情報提供】医療機関等におけるサイバーセキュリティ対策の強化について(注意喚起)	2022年11月11日

通知番号	宛先対象	タイトル	発行日
307	会員連絡窓口、 全役職者	(お知らせ)【NISCからの情報提供T686】の送付	2022年11月10日
306	全員	【(修正版)申込みはお早めに】「(女性会員限定)第2回JAHISオンラインセミナー・交流会」開催ご案内	2022年11月10日
305	会員連絡窓口、 全役職者	(お知らせ)激甚指定に伴う配慮要請文の発出について	2022年11月8日
304	会員連絡窓口、 全役職者	(お知らせ)冬季の省エネルギーの取組について	2022年11月8日
303	会員連絡窓口、 全役職者	(お知らせ)消費税の適格請求書等保存方式の開始に向けた周知等について	2022年11月8日
302	会員連絡窓口、 全役職者	(お知らせ)オミクロン株対応ワクチンの接種促進のための更なる取組推進についての周知のお願い	2022年11月8日
301	全員	(再々)「JAHISリスクマネジメントセミナー2022」のご案内	2022年11月8日
300	全員	「JAHIS2022年度 医事コンピュータ部会 業務報告会/特別講演」開催のご案内	2022年11月9日
299	会員連絡窓口、 全役職者	(お知らせ)【MEJ四次元】12/8日経SDGs医療DXシンポジウムのご案内	2022年11月7日
298	会員連絡窓口、 全役職者	(お知らせ)【NISCからの情報提供T685】の送付	2022年11月4日
297	全員	【再々送】「(女性会員限定)第2回JAHISオンラインセミナー・交流会」開催ご案内	2022年11月4日
296	全員	JAHIS会議室の利用制限の緩和について	2022年11月1日
295	全員	(再)「JAHISリスクマネジメントセミナー2022」のご案内	2022年11月2日
294	会員連絡窓口、 全役職者	(お知らせ)新型コロナウイルスと季節性インフルエンザの同時流行に備えたリーフレットについての周知のお願い	2022年11月2日
293	会員連絡窓口、 全役職者	(お知らせ)令和4年度しわ寄せ防止キャンペーン月間周知依頼	2022年10月31日
292	全員	「JAHIS 地域医療連携セミナー」のご案内	2022年10月31日
291	会員連絡窓口、 全役職者	IPA SC3事務局からのお知らせ:「サプライチェーン全体のサイバーセキュリティ向上のための取引先とのパートナーシップの構築に向けて」の公表について	2022年10月31日
290	会員連絡窓口、 全役職者	(お知らせ)【NISCからの情報提供T683】の送付	2022年10月28日
289	全員	(最終案内)JAHIS教育コース 第二回「医療情報システム入門コース」オンライン開催のご案内	2022年10月27日
288	全員	【再送】「(女性会員限定)第2回JAHISオンラインセミナー・交流会」開催ご案内	2022年10月27日
287	会員連絡窓口、 全役職者	(お知らせ)【NISCからの情報提供T682】の送付	2022年10月26日
286	会員連絡窓口、 全役職者	(お知らせ)「職場における積極的な検査等の実施について(報告依頼)」の廃止についての周知のお願い	2022年10月24日
285	全員	(再々)JAHIS教育コース 第二回「医療情報システム入門コース」オンライン開催のご案内	2022年10月24日
284	医療システム 部会	再送<お知らせ/参加のお願い>「ePath実装ガイド策定WG」メンバー募集の件	2022年10月31日
283	会員連絡窓口、 全役職者	(お知らせ)【NISCからの情報提供T680】の送付	2022年10月20日
282	全員	「(女性会員限定)第2回JAHISオンラインセミナー・交流会」開催ご案内	2022年10月20日
281	全員	(再)JAHIS教育コース 第二回「医療情報システム入門コース」オンライン開催のご案内	2022年10月18日
280	会員連絡窓口、 全役職者	(お知らせ)【周知依頼】2022年9月の「価格交渉促進月間」フォローアップ調査の実施等について	2022年10月18日
279	会員連絡窓口、 全役職者	(お知らせ)今秋以降の感染拡大期における感染対策についての分科会提言に関する周知のお願い	2022年10月18日
278	会員連絡窓口、 全役職者	(お知らせ)【周知依頼】大阪・関西万博 特別仕様ナンバープレートについて	2022年10月18日
277	会員連絡窓口、 全役職者	(お知らせ)【NISCからの情報提供T679】の送付	2022年10月17日

会員メール

通知番号	宛先対象	タイトル	発行日
276	会員連絡窓口、 全役職者	(お知らせ)【周知依頼】マスクの着用に関するリーフレットについて(更なる周知のお願い)	2022年10月17日
275	全員	「JAHISリスクマネジメントセミナー2022」のご案内	2022年10月14日
274	会員連絡窓口、 全役職者	(お知らせ)【周知依頼】企業版ふるさと納税に関する周知のお願いについて(企業と地方公共団体とのマッチング会)	2022年10月13日
273	会員連絡窓口、 全役職者	(お知らせ)【NISCからの情報提供T678】の送付	2022年10月12日
272	会員連絡窓口、 全役職者	(お知らせ)【NISCからの情報提供T677】の送付	2022年10月12日
271	医療システム 部会	再送【ご依頼】標準化退院時サマリーの実装に関するアンケート調査について	2022年10月7日
270	全員	医療機関等システムベンダに対する医療機関等ONSへの登録について	2022年10月6日
269	全員	第83回HL7セミナーのご案内	2022年10月11日
268	全員	JAHIS教育コース 第二回「医療情報システム入門コース」オンライン開催のご案内	2022年10月4日
267	全員	(最終案内) JAHISオンラインセミナー「製造業者/サービス事業者による医療情報セキュリティ開示書(MDS/SDS)の書き方」のご案内	2022年10月4日
266	会員連絡窓口、 全役職者	(お知らせ)化学物質管理セミナー2022/化管法施行令改正及びPRTTR電子届出講習会の開催について	2022年10月4日
265	会員連絡窓口、 全役職者	(お知らせ)【NISCからの情報提供T676】の送付	2022年10月3日
264	全員	(最終のご案内) 医事コン部会 海外オンラインセミナーのご案内 10/20(木) アメリカ フランスのリフィル処方箋制度と運用について	2022年9月27日
263	全員	(再々) JAHISオンラインセミナー「製造業者/サービス事業者による医療情報セキュリティ開示書(MDS/SDS)の書き方」のご案内	2022年9月27日
262	全員	(最終案内)【会員限定】「JAHIS勉強会」(日本の行政動向)開催のご案内	2022年9月27日
261	会員連絡窓口、 全役職者	【お知らせ】(周知依頼)令和4年度最低賃金額の改定 及び最低賃金の引上げに向けた中小企業・小規模事業者支援事業に関する周知・広報の実施等について(協力依頼)	2022年9月22日
260	全員	(再) JAHISオンラインセミナー「製造業者/サービス事業者による医療情報セキュリティ開示書(MDS/SDS)の書き方」のご案内	2022年9月21日
259	全員	(再)【会員限定】「JAHIS勉強会」(日本の行政動向)開催のご案内	2022年9月21日
258	全員	電子処方箋におけるYJコード医薬品マスタ仕様変更について	2022年9月21日
257	会員連絡窓口、 全役職者	I PA SC3事務局からのお知らせ:10月14日(金)開催:「中小企業が取り組むべき」旬のセキュリティ対策に関するウェビナーのご案内	2022年9月16日
256	全員、医事コン ピュータ部会	医事コン部会 海外オンラインセミナーのご案内 10/20(木) アメリカ フランスのリフィル処方箋制度と運用について	2022年9月16日
255	会員連絡窓口、 全役職者	(お知らせ)【NISCからの情報提供T672】の送付	2022年9月15日
254	会員連絡窓口、 全役職者	(お知らせ)【NISCからの情報提供T673】の送付	2022年9月14日
253	全員	【お知らせ】第5回 医療・介護・薬局Week [東京]のご案内	2022年9月9日
252	会員連絡窓口、 全役職者	(お知らせ)【周知依頼】開催案内_PCB廃棄物の適正な処理促進に関する説明会開催について	2022年9月9日
251	会員連絡窓口、 全役職者	(お知らせ)【周知依頼】新型コロナウイルス感染症対策の基本的対処方針の変更に関する周知のお願い	2022年9月9日
250	全員	【GHSメルマガ】■「第11回 リスクマネジメント・トレーニング講座」のご案内(再送)	2022年9月5日
249	会員連絡窓口、 全役職者	【お知らせ】(参考共有) 個人情報改正を受けた「医療情報を取り扱う情報システム・サービスの提供事業者における安全管理ガイドライン」の修正について	2022年9月1日
248	会員連絡窓口、 全役職者	(お知らせ)【オンラインセミナーご案内】PSP:2022年度第2回施設・環境・設備安全セミナー(10/26)	2022年9月1日
247	全員	JAHISオンラインセミナー「製造業者/サービス事業者による医療情報セキュリティ開示書(MDS/SDS)の書き方」のご案内	2022年9月2日
246	会員連絡窓口、 全役職者	(お知らせ)【周知依頼】大阪・関西万博「運営参加」の募集について	2022年8月29日

通知番号	宛先対象	タイトル	発行日
245	全員	第82回HL7セミナーのご案内	2022年8月29日
244	全員	【会員限定】「JAHIS勉強会」(日本の行政動向)開催のご案内	2022年8月30日
243	会員連絡窓口、 全役職者	(お知らせ)【周知依頼】2022年9月の「価格交渉促進月間」の実施について	2022年8月25日
242	会員連絡窓口、 全役職者	(お知らせ)【NISCからの情報提供T670】の送付	2022年8月25日
241	全員	【最終ご案内】(女性会員限定)JAHISオンラインセミナー・女性交流会 開催ご案内	2022年8月25日
240	医療システム 部会	訂正再送 《お知らせ》『物流システム専門委員会』新規メンバー募集について	2022年8月23日
239	会員連絡窓口、 全役職者	(お知らせ)【NISCからの情報提供T669】の送付	2022年8月23日
238	会員連絡窓口、 全役職者	(お知らせ)【厚生労働省】ニーズ・シーズ マッチングセミナーのご周知・ご案内のお願い	2022年8月23日
237	全員	訂正再送 《お知らせ》『物流システム専門委員会』新規メンバー募集について	2022年8月23日
236	会員連絡窓口、 全役職者	【お知らせ】PHR協会より「PHR協会講演会」のお知らせ	2022年8月18日
235	会員連絡窓口、 全役職者	(お知らせ)【NISCからの情報提供T668】	2022年8月18日
234	全員	【残り僅か】(女性会員限定)JAHISオンラインセミナー・女性交流会 開催ご案内	2022年8月18日
233	会員連絡窓口、 全役職者	(お知らせ)2022年度分野横断的演習の参加募集の件	2022年8月16日
232	会員連絡窓口、 全役職者	(お知らせ)【周知依頼】企業版ふるさと納税に関する周知のお願いについて(企業と地方公共団体とのマッチング会)	2022年8月16日
231	全員	【再】JAHIS教育「介護請求システム入門コース」(オンライン開催)のご案内	2022年8月15日
230	全員	【定員間近!】(女性会員限定)JAHISオンラインセミナー・女性交流会 開催ご案内	2022年8月11日
229	会員連絡窓口、 全役職者	(お知らせ)【NISCからの情報提供T667】の送付	2022年8月10日
228	会員連絡窓口、 全役職者	(お知らせ)【NISCからの情報提供T666】の送付	2022年8月9日
227	会員連絡窓口、 全役職者	IPA SC3事務局からのお知らせ:【注意喚起】夏季の長期休暇において実施いただきたい対策について	2022年8月9日
226	全員	【再】JAHIS教育「介護請求システム入門コース」(オンライン開催)のご案内	2022年8月8日
225	全員	【再々送】(女性会員限定)JAHISオンラインセミナー・女性交流会 開催ご案内	2022年8月4日
224	会員連絡窓口、 全役職者	(お知らせ)【NISCからの情報提供T664】の送付	2022年8月3日
223	会員連絡窓口、 全役職者	【お知らせ】(周知依頼)新型コロナウイルス感染症に係る医療機関・保健所からの証明書等の取得に対する配慮に関する要請につきまして	2022年8月3日
222	全員	【再】JAHIS教育「介護請求システム入門コース」(オンライン開催)のご案内	2022年8月2日
221	会員連絡窓口、 全役職者	(お知らせ)【周知依頼】従業員に検査証明を求めないことに関する各業界への要請のお願い	2022年8月2日
220	会員連絡窓口、 全役職者	(お知らせ)【再周知依頼】経済産業省デジタル推進人材育成プログラム「マナビDX Quest(デラックス・クエスト)」受講生募集について	2022年8月1日
219	会員連絡窓口、 全役職者	(周知依頼)オンライン申請用QRコード付きマイナンバーカード交付申請書を利用したマイナンバーカードの積極的な取得について(協力依頼)	2022年7月29日
218	会員連絡窓口、 全役職者	(お知らせ)【NISCからの情報提供T663】の送付	2022年7月28日
217	会員連絡窓口、 全役職者	(お知らせ)【NISCからの情報提供T662】の送付	2022年7月27日
216	会員連絡窓口、 全役職者	(お知らせ)【周知依頼】新型コロナワクチンの3回目接種に関して	2022年7月27日
215	会員連絡窓口、 全役職者	(お知らせ)【周知依頼】お盆期間中に帰省される方への検査受検に関して	2022年7月27日
214	全員	【お知らせ】8月12日(金)は事務所を閉鎖します	2022年7月27日

会員メール

通知番号	宛先対象	タイトル	発行日
213	会員連絡窓口、 全役職者	(お知らせ)【周知依頼】「B. 1. 1. 5 2 9系統(オミクロン株)が主流である間の当該株の特徴を踏まえた感染者の発生場所毎の濃厚接触者の特定及び行動制限並びに積極的疫学調査の実施について」(令和4年3月16日)の改正について	2022年7月27日
212	全員	【再送】(女性会員限定) J A H I S オンラインセミナー・女性交流会 開催ご案内	2022年7月28日
210	会員連絡窓口、 全役職者	(再周知依頼) 熱中症予防の普及啓発・注意喚起について	2022年7月22日
208	会員連絡窓口、 全役職者	(お知らせ)【N I S Cからの情報提供 T 6 6 1】の送付	2022年7月20日
207	会員連絡窓口、 全役職者	(お知らせ)【周知依頼】経済産業省デジタル推進人材育成プログラム「マナビDX Quest (デラックス・クエスト)」受講生募集について	2022年7月20日
206	全員	「(女性会員限定) J A H I S オンラインセミナー・女性交流会」開催ご案内	2022年7月19日
205	会員連絡窓口、 全役職者	(お知らせ)【周知依頼】出勤者数の削減(テレワーク等の徹底)に関するお願い	2022年7月19日
204	会員連絡窓口、 全役職者	(お知らせ)新型コロナウイルス感染症対策の基本的対処方針の変更に関する周知のお願い	2022年7月19日
203	会員連絡窓口、 全役職者	(お知らせ)【周知依頼】第6回「ジャパンSDGsアワード」の公募開始(政府主催)	2022年7月15日
202	医療システム 部会	再送【ご協力のおお願い】病棟における利用システム機器に関する電子アンケートの実施について	2022年7月25日
201	会員連絡窓口、 全役職者	(お知らせ)【周知依頼】マイナンバーカードの取得、健康保険証利用申込及び公金受取口座登録の促進並びに業界団体・個社の取組の好事例の情報提供について	2022年7月14日
200	会員連絡窓口、 全役職者	(お知らせ)【周知依頼】2022年6月の電力需給ひっ迫に関するアンケート	2022年7月13日
199	会員連絡窓口、 全役職者	(お知らせ)【N I S Cからの情報提供【T 6 5 9】】の送付	2022年7月7日
198	会員連絡窓口、 全役職者	(お知らせ)【周知依頼】流通スタートアップのコンテスト(SUPER-DXコンテスト)の募集開始につきまして	2022年7月7日
197	全員	(再)【ご連絡】国際モダンホスピタルショウ2022	2022年7月6日
196	会員連絡窓口、 全役職者	(お知らせ)MEDISからのお知らせ(メディカルDX・ヘルステックフォーラムの開催について)	2022年7月6日
195	会員連絡窓口、 全役職者	(お知らせ)【ご依頼】マイナンバーカードの取得、健康保険証利用申込及び公金受取口座登録の促進並びに業界団体・個社の取組の好事例の情報提供について	2022年7月6日
194	会員連絡窓口、 全役職者	(お知らせ)【N I S Cからの情報提供【T 6 5 8】】の送付	2022年7月6日
193	会員連絡窓口、 全役職者	(お知らせ)【N I S Cからの情報提供【T 6 5 7】】の送付	2022年7月6日
192	全員	【ご紹介】公益社団法人日本医業経営コンサルタント協会「令和4年度医業経営セミナー」について	2022年7月5日
191	全員	J A H I S 教育コース 第一回「医療情報システム入門コース」オンライン開催のご案内	2022年7月4日
190	会員連絡窓口、 全役職者	(お知らせ)【周知依頼】夏季の省エネルギーの取組について	2022年6月30日
189	会員連絡窓口、 全役職者	【お知らせ】N I S C重要インフラニュースレター第312号	2022年6月29日
188	全員	J A H I S 会議室の定員制限の緩和について	2022年6月28日
187	会員連絡窓口、 全役職者	(ご連絡)省エネについて	2022年6月28日

新規会員紹介

会誌第69号（2022年8月発行）掲載以降に新たに入会された会員各社の皆様から、会社の業務概要やJAHISへの参加目的、活動する上でのJAHISに望むことなどについて、メッセージをいただきましたので、入会日順に掲載します。

紹介項目

- ◆ 会社名
- ◆ 郵便番号、所在地
- ◆ 電話番号
- ◆ ホームページURL
- ◆ 会員連絡窓口
- ◆ 会社紹介

エムジーファクトリー株式会社（2022年6月1日入会）

〒532-0011 大阪府大阪市淀川区西中島3-9-13 NLC新大阪8番館407号室

TEL：06-6195-7738

<https://www.mgfactory.co.jp>

事業支援部 尾崎 奈々

.....

弊社はPHR（Personal Health Record）事業に取り組む会社で、「QOLMS（コルムス）」という健康情報サービスを共有するためのプラットフォームを開発しております。

本サービスでは、医療機関と患者を繋ぐとともに、ユーザー自身が必要とする様々なヘルスケアデータを蓄積することが可能です。かけがえのない健康情報をご本人にお返しすることで、個人が一生涯を通じて自分自身の健康と向き合い、より充実した人生を過ごすことができると考えております。

弊社は企業様や自治体様独自のヘルスケアサービスとして本サービスを提供し、また開発を支援することにより、ヘルスケアサービスの効率的な発展に寄与しております。今後、PHRはAIを活用することにより、病気の未然・重症化予防に繋げたり、具体的な生活習慣の改善を促したりするなど、蓄積したヘルスケアデータの活用方法は無限大だと感じております。

JAHISを通じて業界等の標準化に寄与し、会員の皆様との交流を通じて業界に貢献をしたいと考えております。何卒、ご指導ご鞭撻の程、お願い申し上げます。

プロテック株式会社 (2022年7月1日入会)

〒060-0002 北海道札幌市中央区北2条西18丁目1番地5

TEL : 011-640-5565

<https://www.protech-web.co.jp>

開発課 課長 松下 信康

.....

私どもプロテック株式会社は、「なければ困る、あるとウレシイ」システム作りをモットーに、社会福祉法人の業務をトータルでサポートし続けて36年。設立当時も今と変わらず福祉の現場は慢性的な人手不足で、職員の方は事務作業をしながら利用者支援の時間を捻出することに四苦八苦していました。私たちの使命はこのような煩雑さを解消し、本来の支援のための時間をもっと豊かにすることだと思い、今日まで邁進してきました。

この度JAHISに参画させていただき、制度改正や新たな施策についての迅速な情報収集、わかりやすい発信をすることで、より一層現場に寄り添ったサービスをご提供できるものと期待しております。また、JAHIS会員企業様との研鑽と連携により、今後ますます多様で平等な社会の実現に寄与して参りたいと思っております。どうぞよろしくお願い申し上げます。

株式会社アインホールディングス (2022年7月1日入会)

〒003-0005 北海道札幌市白石区東札幌5条2丁目4-30

TEL : 011-814-0010

<https://www.ainj.co.jp/>

経営企画室 企画戦略課長 石井 僚

.....

アイングループでは健康で、美しく、幸せな日々を過ごせる社会を目指し、ファーマシー事業及びリテール事業を展開しております。ファーマシー事業では、北海道から沖縄まで約1,208薬局（2022年12月末時点）を展開、年間約2,200万枚の処方箋を応需しており、アイングループ全体の約9割の売上構成を占めています。リテール事業では、コスメ&ドラッグストアAINZ&TULPEを首都圏はじめ都市部中心に78店舗（2022年12月末時点）展開しております。国の政策として医療のデジタル化が推進される中で、薬局運営に関わる場所では、オンライン服薬指導、オンライン資格確認の運用が開始され、そして、2023年1月より電子処方箋の運用が開始されました。このようなデジタル化の普及は薬局サービスに大きな変革をもたらすことから、アイングループでは、その方向性や、システム構成等の情報を把握することの重要性が高まっており、JAHISに加盟し活動させていただく中で、医療業界のIT、システム関連の情報に触れる機会を増やしたいと考えています。

アマゾン ウェブ サービス ジャパン合同会社 (2022年8月1日入会)

〒141-0021 東京都品川区上大崎3丁目1-1 目黒セントラルスクエア

TEL : 03-6332-6264

<https://aws.amazon.com/jp/>

パブリックセクター 事業開発本部 シニア事業開発マネジャー 遠山 仁啓

私達は2006年にクラウド事業を開始し、2011年より東京リージョンを開設して、国内でクラウドサービスを提供しております。近年はヘルスケア領域におけるクラウド活用が加速しており、医療機関や研究機関の皆様へ、電子カルテ・治療機器・治療アプリ・治験関連・深層学習領域・オンライン診療 & 服薬指導・Web問診・放射線読影センター・医療ビッグデータ関連・ゲノム・介護・創薬など、広範囲に渡り活用頂いています。しかしながら、大規模医療機関における病院情報システムのクラウド化は様々な課題やハードルがあり、クラウド活用が本格化していません。JAHISの皆様と連携させて頂き、ヘルスケアに関わる多くのステークホルダーの皆様が、クラウド活用によって様々なメリットを享受頂けるよう、事業開発を進めて参りたいと存じます。グローバルにおいては大規模医療機関向けの電子カルテや大量の医療データを臨床応用する為のデータレイクがクラウド上に構築されている事例が増えています。グローバルベンダーとしてこのような情報を皆様へ共有させて頂きたく思っています。どうぞ宜しくお願い致します。

株式会社アイ・オー・データ機器 (2022年10月1日入会)

〒920-8512 石川県金沢市桜田町3-10

TEL : 076-260-3377

<https://www.iodata.jp/>

営業本部 ソリューションビジネス推進部 専任部長 内藤 基夫

弊社は、1976年創業のデジタル機器の総合周辺機器メーカーです。コンピュータの黎明期より社会のデジタル化の歩みと共にラインナップを拡げ、メモリ、ストレージ、ディスプレイ、ネットワーク、サプライ等、現在2,000を超える商品を展開しています。

近年では、デバイス単品販売からシステム・サービスへと商品の高度化に取り組む他、業種・業態に適した提案開発に力を注いでいます。こうした中から、オンライン資格確認端末「APX-MEDICAL/QC」の開発を通じてヘルスケア分野に参入いたしました。医療画像参照用ディスプレイ、電子処方箋管理サービス対応モジュール等、商材の拡充を進める一方、医療データのバックアップによるサイバーセキュリティ対策提案等も通じて、医療機関様へは患者様に貢献して参りたいと考えています。

貴会会員の皆様方には、何卒ご指導ご鞭撻の程、よろしくお願い申し上げます。

株式会社バッファロー (2022年11月1日入会)

〒460-8315 愛知県名古屋市中区大須三丁目30番20号 (赤門通ビル)

TEL : 052-249-6610 (代表) FAX:052-249-6609

<https://www.buffalo.jp/biz/>

法人ビジネス本部 営業技術部 チャンネルマーケティング課 大崎 康弘

株式会社バッファローは愛知県名古屋市に本社を置く、ネットワーク関連、パソコン周辺機器メーカーです。

家庭向けのみならず、法人向け製品の開発や、保守など各種サービスの提供も行っております。また、グループには設定・施工のできる施工会社をもち、機器の提供から設置工事、サポートまで一貫して行う体制を整えています。

国内で製品の設計、開発、検証をしているため、全国の技術員による迅速なサポートが可能な点を強みとしています。

医療業界においても、ランサムウェア対策としてのデータバックアップソリューション、衛生環境を保つための抗菌・抗ウイルス加工マウスやキーボード等の開発、また、患者様向けフリーWi-Fiの構築キット等、様々なソリューションをそろえております。今後とも宜しくお願い致します。

株式会社DIGITAL LIFE (2022年11月1日入会)

〒233-0002 神奈川県横浜市港南区上大岡西1-6-1

TEL : 045-842-4176

<https://www.digital-life.co.jp/>

ヘルスケアIT事業 シニアマネジャー 羽染 透一

介護という仕事が当たり前ではない時代に、その必要性をいち早く感じ介護事業を始めたツクイグループの子会社として、2020年9月DIGITAL LIFEは誕生しました。

介護サービスで培った経験と、先進的なデジタルの力で、超高齢社会に生きる人々の人生に寄り添い、さらに、その人生を支える人、企業、地域が直面する課題に対し、価値あるソリューションを提供・創出し、豊かな未来を共に描く。そんなパートナーになりたいと考えています。

今や100年になろうとする人生を幸福にするため、我々DIGITAL LIFEは、『進化することに挑戦』し、超高齢社会の課題に真摯に向き合いながら、人生100年時代を支え、輝かせることを実現する企業を目指してまいります。

貴会への入会を機に有益な情報収集とともに介護事業へのサービス提案を実現したいと考えております。

今後ともご指導の程宜しくお願い申し上げます。

ezCaretech Japan株式会社 (2022年12月1日入会)

〒107-0062 東京都港区南青山二丁目22番17号 センテニアル青山9階

TEL : 03-6447-0222

https://www.ezcaretech.com/en/about/#company_section_4

HIS事業部 マネジャー 小野 優希

弊社は韓国ソウル大学医学部を母体とする医療情報システム開発会社のezCaretech社による100%出資の日本法人です。ezCaretech社は病院基幹システム(HIS)ベンダーとして、ソウル大学附属病院を始め、韓国の大学病院セグメントでは最大の納入実績を持ち、米国や中東など海外でもシステム構築実績があります。弊社はそうした医療システムの日本での開発・販売を行うべく、2020年に設立され、現在は大学病院様等を中心にHISの販売活動を行っております。

弊社のHISであるBESTCare2.0の旗艦病院であるソウル大学付属ブندان病院はBESTCare2.0導入後、米国外では初となる米国HIMSS最高ランクのstage 7認定を受け、現在までに3度の更新を続けているなど、世界的にも先進的なDigital Hospitalとして知られており、そうした先進的な取り組みを是非日本でもご紹介できればと思っております。

貴会への入会を機会に、業界等の最新動向を共有するとともに、会員の皆様との交流を通じて、医療機関様ひいては患者様の利便性を更に高め、社会に広く貢献していきたく存じます。何卒、ご指導ご鞭撻の程、お願い申し上げます。

株式会社法研システムズ (2022年12月1日入会)

〒102-0074 東京都千代田区九段南1-1-5 日本臓器製薬 九段ビル3階

TEL : 03-5213-4509

<http://systems-recruit.sociohealth.co.jp>

開発グループマネージャー 上園 加津雄

株式会社法研システムズは、創業より70年にわたり、健康・医療・社会保障などのコンテンツサービスを提供している、株式会社法研のグループ企業として、2011年にIT事業部の開発部門を中心に設立いたしました。

弊社では、健康保険加入者が自身の健康情報(健診結果、医療費明細、お薬情報等)を参照できるASPサービス「MY HEALTH WEB(マイヘルスウェブ)」を始め、「レセプト情報管理システム」、「電子レセプト内容点検システム」「特定健診システム」、「後発医薬品差額通知システム」といった組合様向けシステムを開発販売しており、多くの組合様に導入いただいております。この度さらなる製品向上に向けて貴会に入会させていただく事になりました。

医療DXが推進されている中、介護・医療・福祉制度における改正情報や最新動向を共有するとともに、会員の皆様との交流を通じて業界に貢献できればと思っております。

貴会ならびに会員の皆様には、今後ともご指導ご鞭撻のほど何卒よろしくお願い申し上げます。

編集後記

執筆者の皆様におかれましては、年末年始のご多忙の中ご寄稿いただきまして、誠にありがとうございました。2020年1月の第65号（創立25周年記念特別号）以来の年始の会誌発行となり、皆様方にはご苦勞をおかけしました。お蔭様で会誌70号も発刊のめどがたってまいりました。

長らく幽霊会員であった小職がまさか本誌の編集に携わることになるとは、本当に不思議なものです。この会誌の原稿の収集、編集、そして過去の会誌を読み返すことにより、外にいるだけでは見えなかったJAHIS各部会の活動の理解が深まり、関係各位の並々ならぬ業界への貢献と熱意が伝わり、業界ならびに会員各社の発展・成長に、運営スタッフ側の自分も寄与しなければ、と思いを強くしているところです。

さて、世の中は、ロシアによるウクライナへの侵攻、生活用品の相次ぐ値上げ、少子化の加速、新型コロナの死者数の増加など明るい話題が少ない現況ですが、昨年末のサッカーワールドカップの日本代表の活躍や年始の実業団駅伝、箱根駅伝、各種大学・高校の全国大会などを観ると、やはり継続的な努力や目標に向けた挑戦する気持ちと向上心、そしてチームワークなどの必要性、それらがいかに重要かを改めて気づかせてくれます。何故これら競技が年始に行われるのか、そう考えると競技者だけではなく、観客である国民への将来への前向きな意欲の醸成をも期待しているのかもしれない。

JAHISは健康・医療・介護・福祉の分野において、関係各社、団体の協力を得ながら、データ循環型社会に必要な様々な医療情報の標準化を、国内外に推進・普及させることができる団体です。そのためには、医療サービスを提供する側のプロセスの見直しにまで踏み込んだ継続的な活動と高い倫理観が必要です。また医療サービス提供者側と国民に、データ循環型社会の受益者としての不安（コスト、セキュリティ、過去データがどこまで利用できるのかなど）をどう払拭していくのか、この解決策を具体的に示すことが求められているかと思います。年末年始のスポーツ観戦で湧き出た自分の感情を忘れることなく、難題解決に向かいたいと思います。

本誌は半期ごとのJAHISの活動概要を皆様にお知らせするという重要な目的があります。しかしながら発行のサイクルの関係で、必ずしも旬の話題をタイムリーに記事にできないこともあるかもしれません。それでも寄稿者の熱い思いと読者に今度はどんな記事が載っているんだ、と期待していただくような特集を関係者のご協力を得て、今後も継続してお届けできるようにしたいと考えております。

T.T記

一般社団法人
保健医療福祉情報システム工業会 会誌 第70号

令和5年2月3日 発行

発行人：下山 赤城

編集委員会：編集人 谷口 浩一
委員 岩本 和則
委員 前田 利勝
委員 岸本 芳典
委員 柘植 章彦
委員 真野 誠
委員 米納 達二
委員 吉野 裕夫
委員 寺崎 貴宏

発行：一般社団法人 保健医療福祉情報システム工業会
〒105-0004 東京都港区新橋二丁目5番5号
新橋2丁目MTビル5階
電話 03-3506-8010
FAX 03-3506-8070
URL <https://www.jahis.jp>

制作：株式会社イデアソシエイツ

